

# 子どもの徳育に関する懇談会 参考資料

平成21年7月

# 目次

## 1 家族・世帯

- 1-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移……………p 1
- 1-2 児童の有無・人数別世帯数(割合)の推移……………p 2
- 1-3 生活保護の保護率の推移(0～14歳)……………p 3
- 1-4 要保護及び準要保護児童生徒数の推移……………p 4
- 1-5 児童相談所における児童虐待相談処理件数……………p 5

## 2 家庭の教育力

- 2-1 家庭の教育力低下に対する認識  
家庭の教育力低下についての実感……………p 6  
家庭の教育力が低下している理由……………p 7
- 2-2 家庭教育で心がけていること……………p 8・9
- 2-3 一週間のうち、家族そろって食事をする日数……………p 10
- 2-4 父母と子どもたちとの会話時間(一週間あたり)……………p 11
- 2-5 家で手伝いをしている子どもの割合(小・中学生)……………p 12
- 2-6 父母のしつけについてどう思っているか……………p 13
- 2-7 子育ての不安や悩みの種類  
(18歳未満の子供を持つ親)……………p 14

## 3 学校教育

- 3-1 学校生活への満足感……………p 15
- 3-2 校内における暴力行為発生件数の  
推移……………p 16
- 3-3 いじめの認知件数の推移……………p 17
- 3-4 道徳教育  
道徳の時間についての児童生徒  
のうけとめ……………p 18  
道徳の時間で使用する教材……………p 19  
諸外国の学校における道徳教育……………p 20
- 3-5 学校における体験活動の実施状況……………p 22
- 3-6 学校における読書活動の取組状況……………p 23

## 4 地域の教育力

- 4-1 地域の教育力低下に対する認識……………p 24
- 4-2 地域が果たすべき役割……………p 25
- 4-3 地域で力を入れるべきこと……………p 26
- 4-4 家の人や学校の先生以外の大人から注意  
された経験……………p 27・28

- 4-5 地域活動への大人の参加
  - 過去1年間の地域活動への参加率……………p 29
  - 地域の活動などへの参加を妨げる理由……………p 30
- 4-6 現在の世相に関する意識(暗いイメージ)……………p 31
- 4-7 家族以外の異なる世代の人々との交流……………p 32
- 4-8 ボランティア活動等の参加状況……………p 33

## 5 子ども

- 5-1 平日の起床時間の状況  
(未就学児、小・中学生)……………p 34
- 5-2 朝食
  - 朝食を食べないことがある割合……………p 35
  - 朝食を食べなかった理由……………p 36
  - 「朝食欠食」と「体のだるさ」の関係……………p 37
- 5-3 平日の学校以外における読書時間の状況  
(小・中学生)……………p 38
- 5-4 多様なメディアとのかかわり
  - 自由時間の過ごし方……………p 39
  - なくてはならないもの……………p 40
- 5-5 平日にテレビ、ビデオ、DVDを視聴する時間  
(未就学児、小・中学生)……………p 41

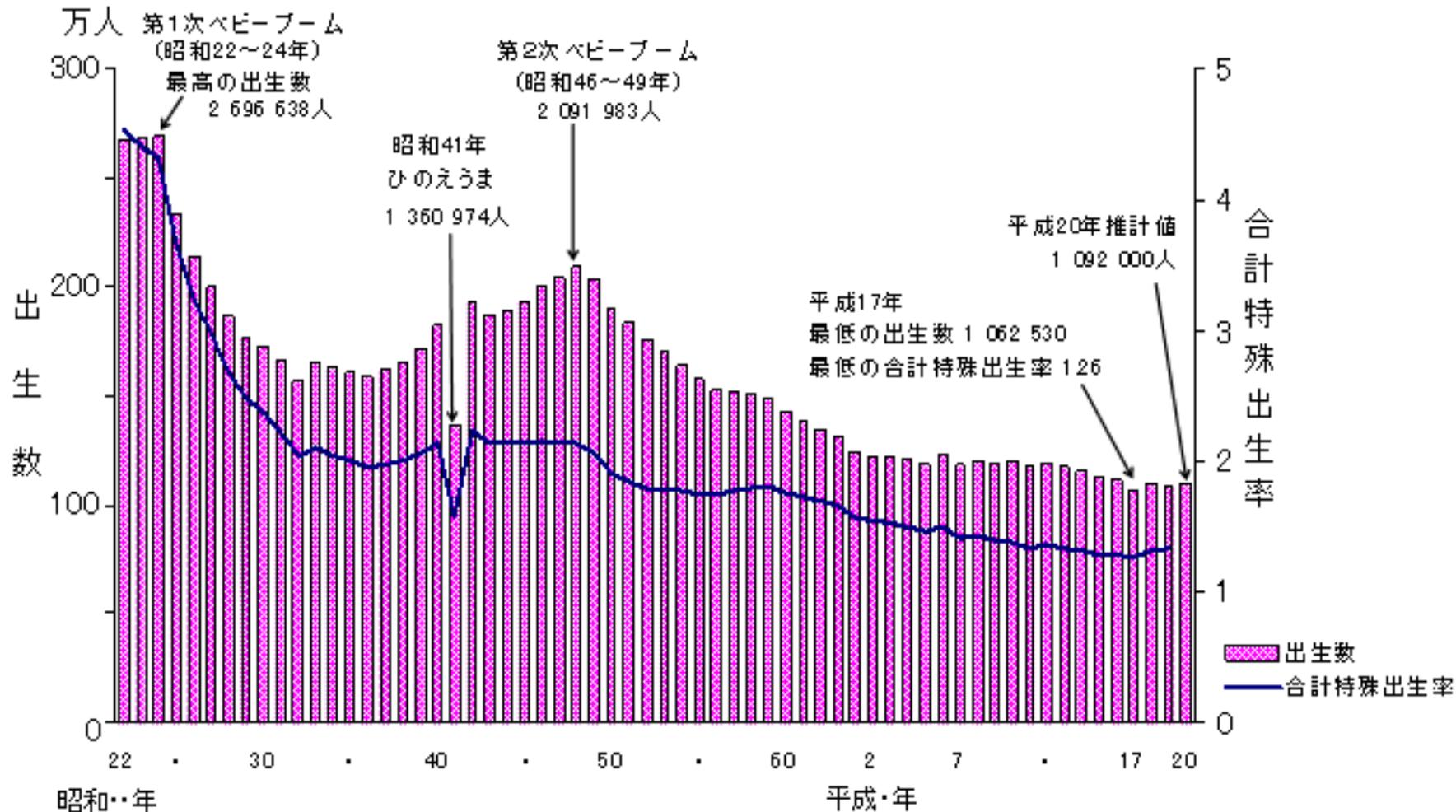
- 5-6 ゲーム、インターネット、携帯電話
  - 平日にテレビゲームやインターネットをする  
時間(未就学児、小・中学生)……………p 42
  - インターネット利用率・携帯電話の所有状況……………p 43
  - 携帯電話の利用状況(少年一般・非行少年)……………p 44
- 5-7 自然体験、奉仕体験、生活体験等の有無  
(小・中学生)……………p 45・46
- 5-8 自然体験の状況
  - 自然体験について「ほとんどしたことがない」  
割合(平成10・17年)……………p 47
  - 自然体験と道徳観・正義感の関係……………p 48
- 5-9 自己肯定感につながる経験・意識の状況  
(小・中学生)……………p 49
- 5-10 規範に関わる意識・行動の状況(小・中学生)……………p 50
- 5-11 将来の夢や目標を持っているか(小・中学生)……………p 51

## 6 その他

- 6-1 刑法犯少年・触法少年の推移……………p 52・53

# 1 家族·世帯

# 1-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



厚生労働省「人口動態統計」(平成20年)

合計特殊出生率とは、その年次の15~49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

# 1-2 児童の有無・人数別世帯数（割合）の推移

児童のいる世帯の全世帯数に占める割合は、3割弱。  
 児童のいる世帯の平均児童数は、1.7人強。

年次	総数	児童のいる世帯					児童のいない世帯	児童のいる世帯の平均児童数
		総数	1人	2人	3人	4人以上		
		推計数（単位：千世帯）					（単位：人）	
平成12年（2000）	45,545 (100%)	13,060 (28.0%)	5,485 (12.0%)	5,588 (12.3%)	1,768 (3.9%)	219 (0.5%)	32,485 (71.3%)	1.75
13（2001）	45,664 (100%)	13,156 (28.8%)	5,581 (12.2%)	5,594 (12.2%)	1,750 (3.8%)	231 (0.5%)	32,508 (71.2%)	1.75
14（2002）	46,005 (100%)	12,797 (27.8%)	5,428 (11.8%)	5,471 (11.9%)	1,683 (3.7%)	214 (0.5%)	33,208 (72.2%)	1.74
15（2003）	45,800 (100%)	12,947 (28.3%)	5,540 (12.1%)	5,596 (12.2%)	1,611 (3.5%)	200 (0.4%)	32,853 (71.7%)	1.73
16（2004）	46,323 (100%)	12,916 (27.9%)	5,510 (11.9%)	5,667 (12.2%)	1,533 (3.3%)	206 (0.4%)	33,407 (72.1%)	1.73
17（2005）	47,043 (100%)	12,366 (26.3%)	5,355 (11.4%)	5,323 (11.3%)	1,480 (3.1%)	208 (0.4%)	34,677 (73.7%)	1.72
18（2006）	47,531 (100%)	12,973 (27.3%)	5,648 (11.9%)	5,552 (11.7%)	1,577 (3.3%)	196 (0.4%)	34,558 (72.7%)	1.72

資料：厚生労働省「平成18年国民生活基礎調査」

## 1-3 生活保護の保護率の推移（0～14歳）

平成19年における被保護率（0～14歳）は、平成7年の2倍近くとなっている。

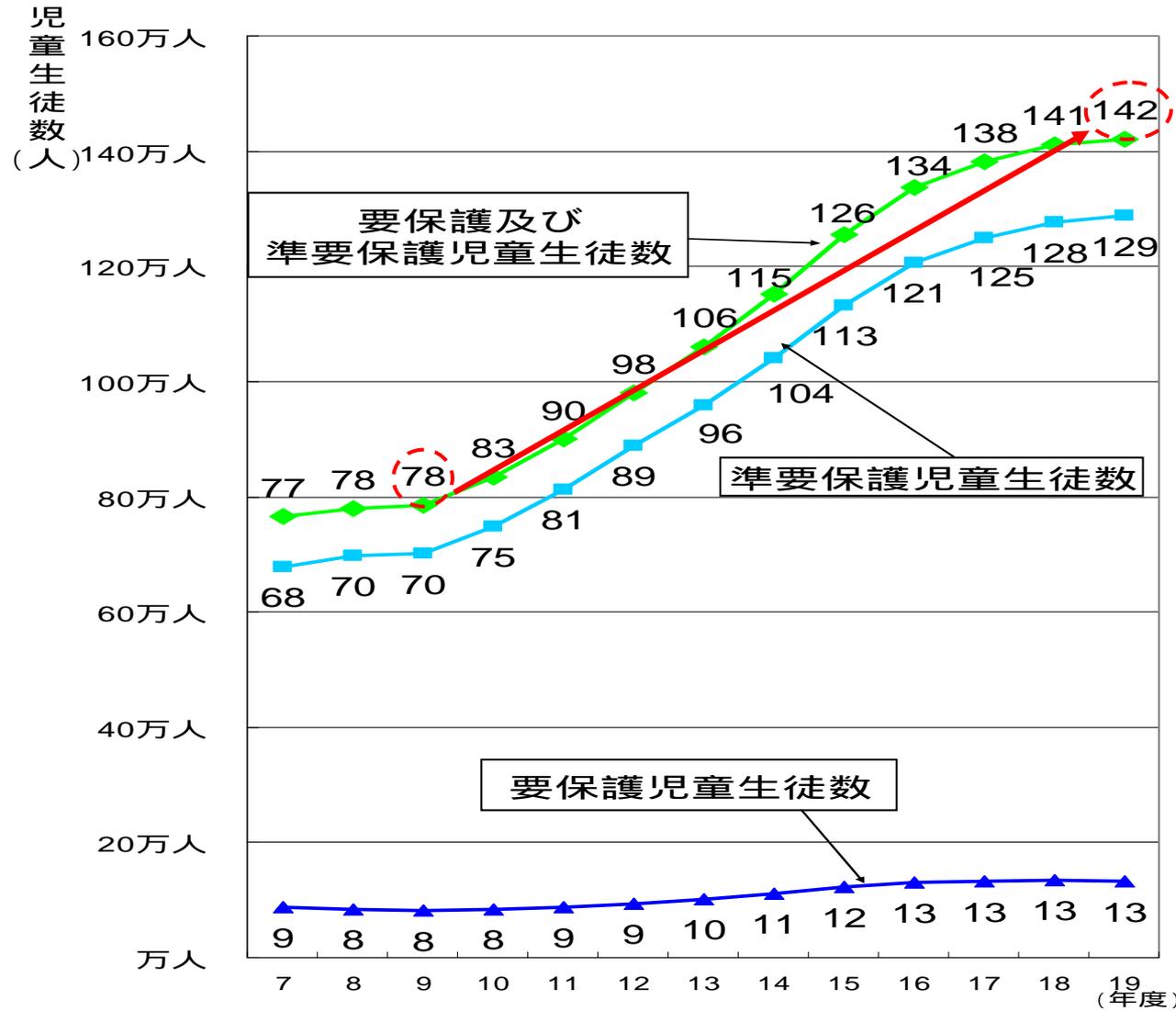
	0～14歳の保護率
平成7年	5.56‰
平成12年	6.94‰
平成17年	10.29‰
平成18年	10.41‰
平成19年	10.33‰

【参考】 全年齢の保護率
6.82‰
8.13‰
11.22‰
11.54‰
11.76‰

各年7月1日現在

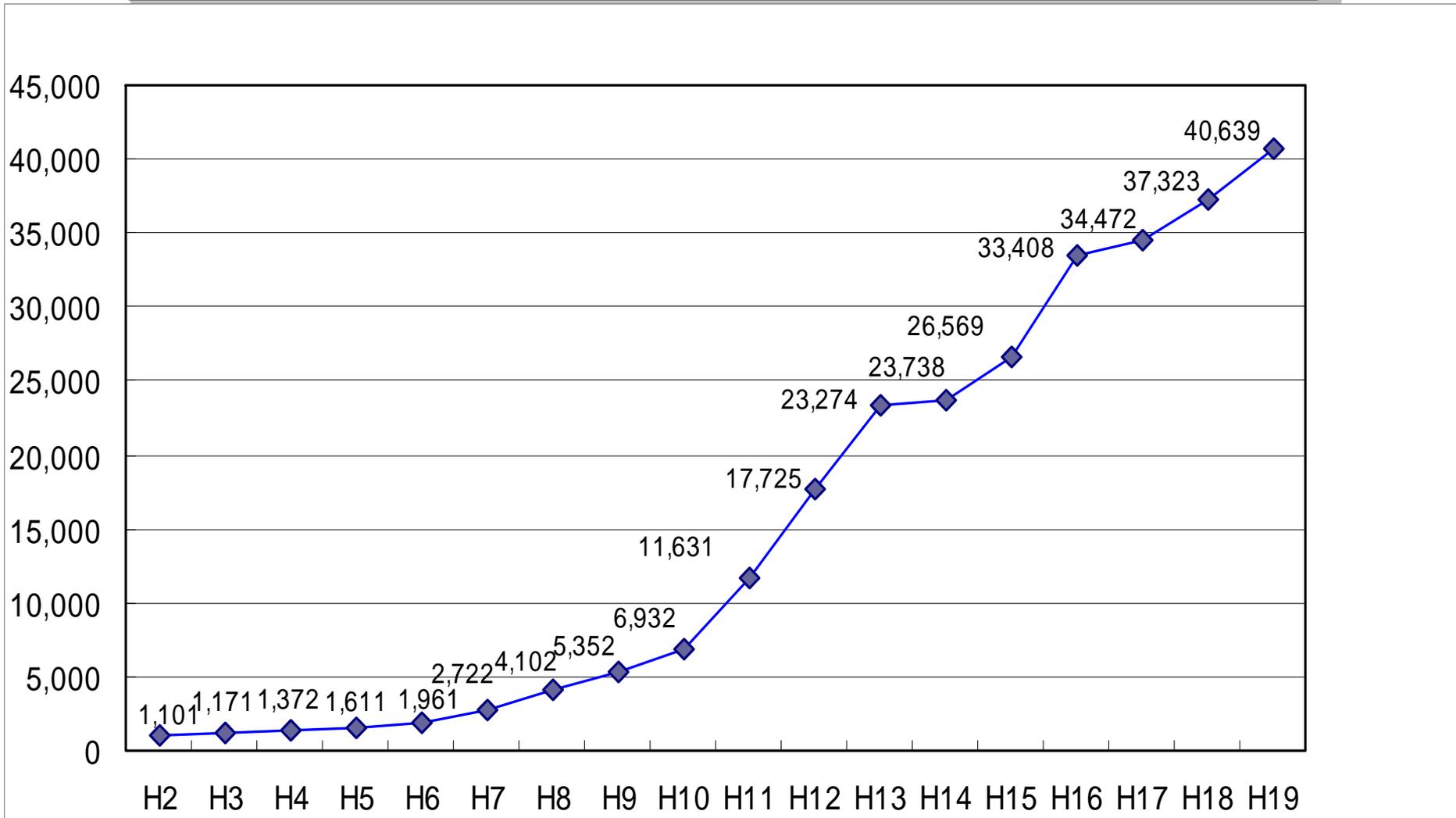
# 1-4 要保護及び準要保護児童生徒数の推移

義務教育段階では就学援助の受給人数が急増(H9 78万人 H19 142万人)



# 1-5 児童相談所における児童虐待相談処理件数

児童虐待相談処理件数は年々増加しており、特にこの10年で急増した。

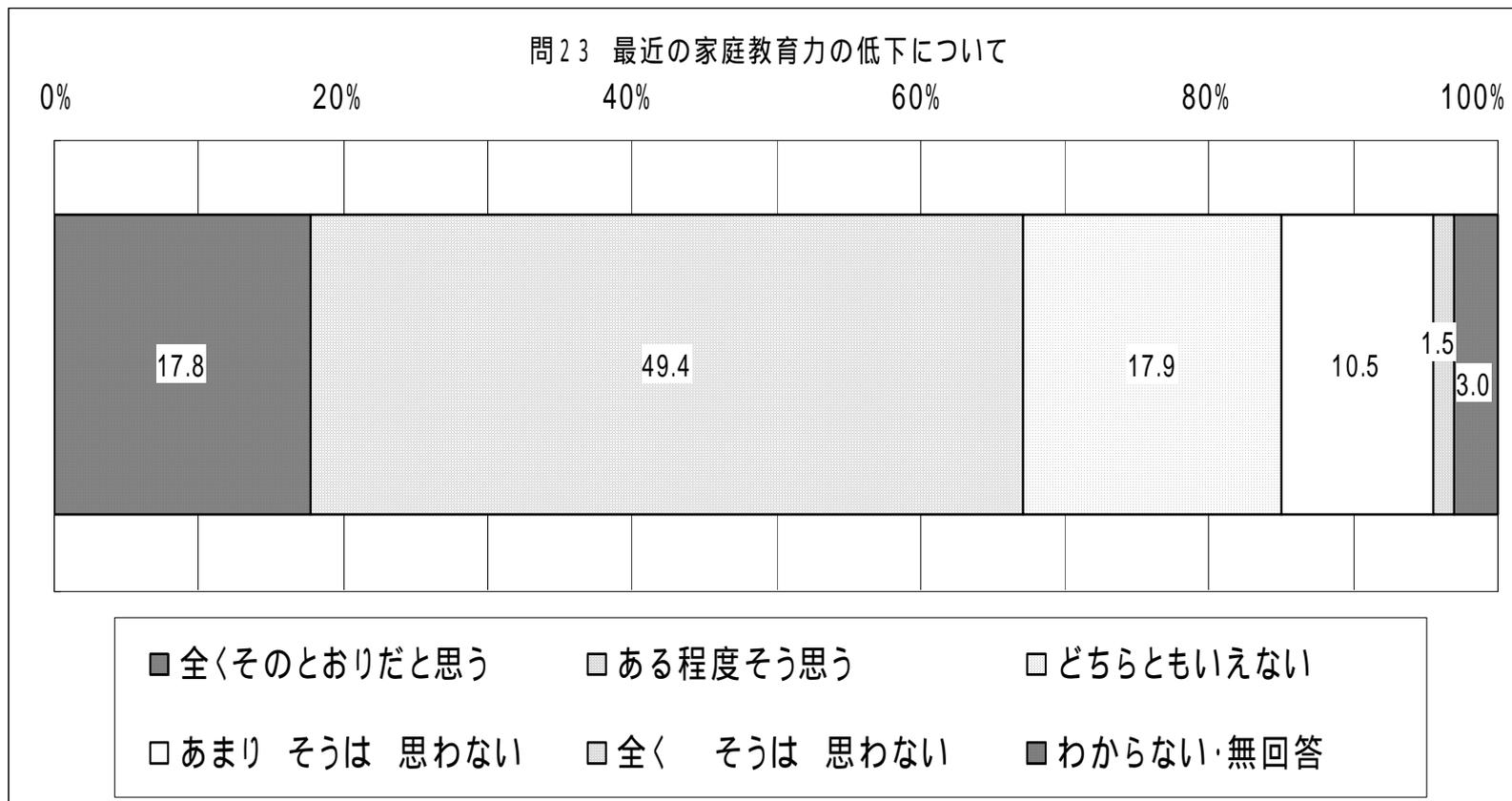


## 2 家庭の教育力

## 【2-1 家庭の教育力低下に対する認識】

# 家庭の教育力低下についての実感

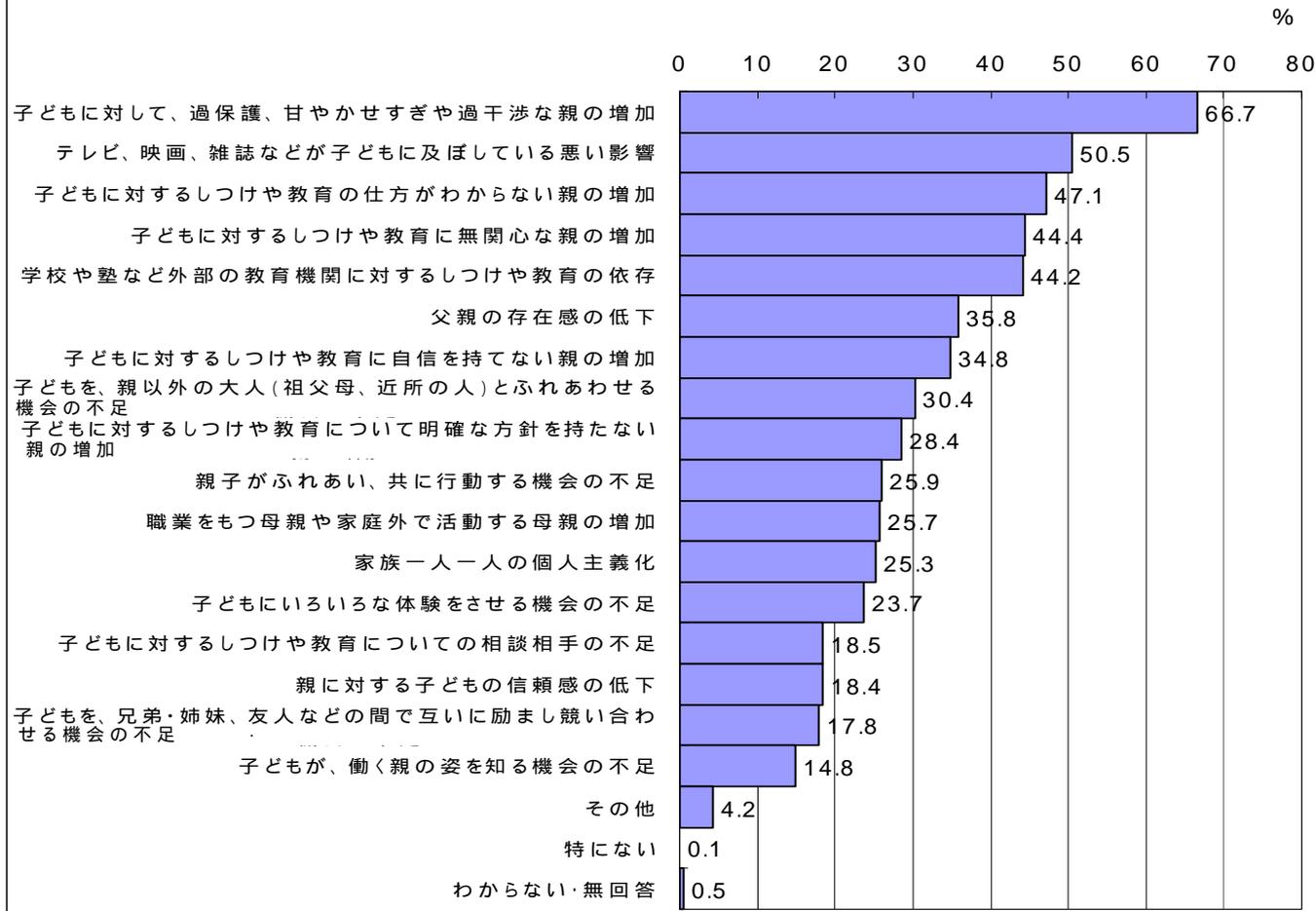
約7割の親が家庭の教育力が低下していると実感。



# 家庭の教育力が低下している理由

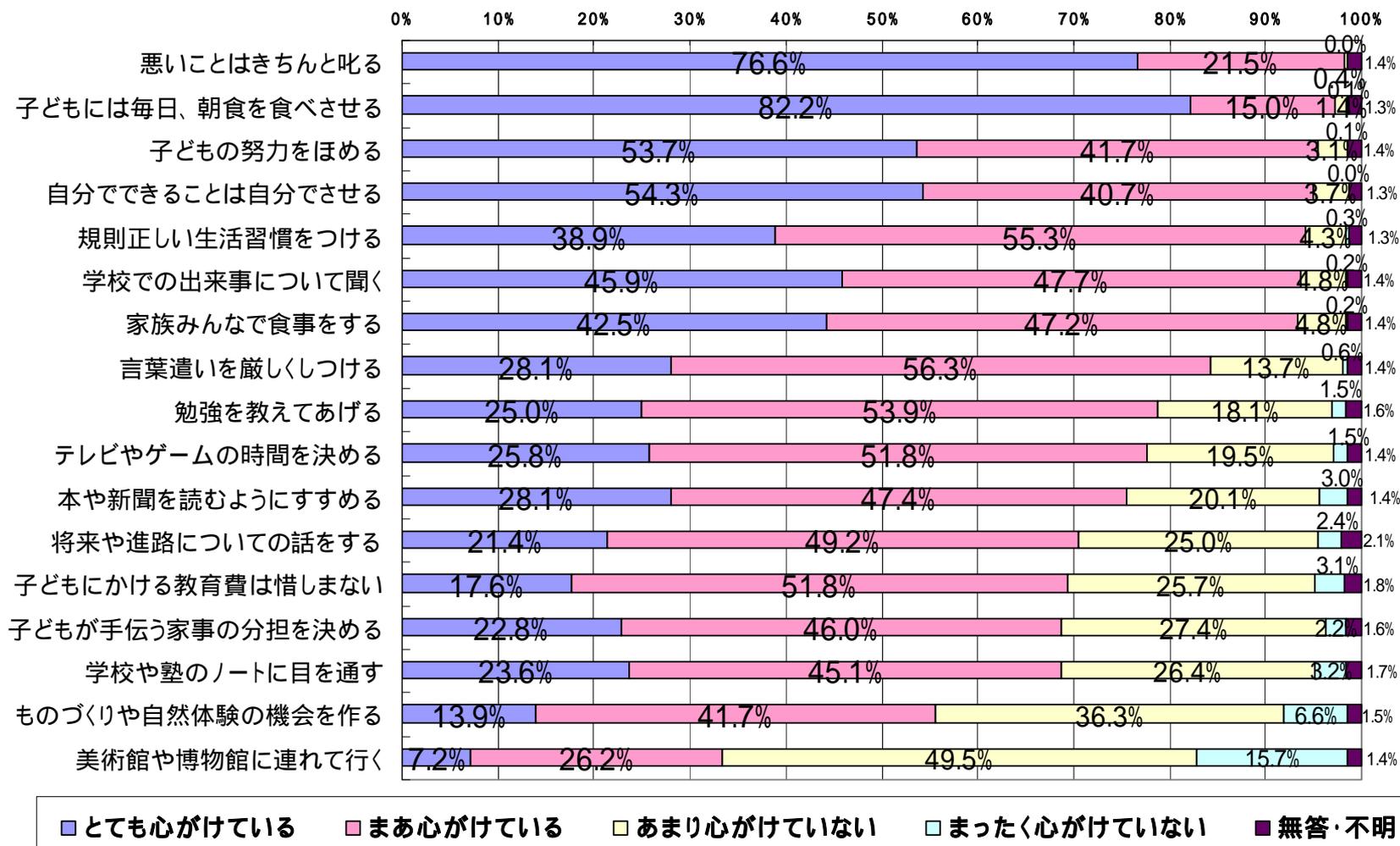
家庭の教育力低下を感じる理由として、過保護、甘やかせすぎや過干渉な親の増加を挙げるものが最も多い。

問23 家庭の教育力が低下している理由(すべて回答)

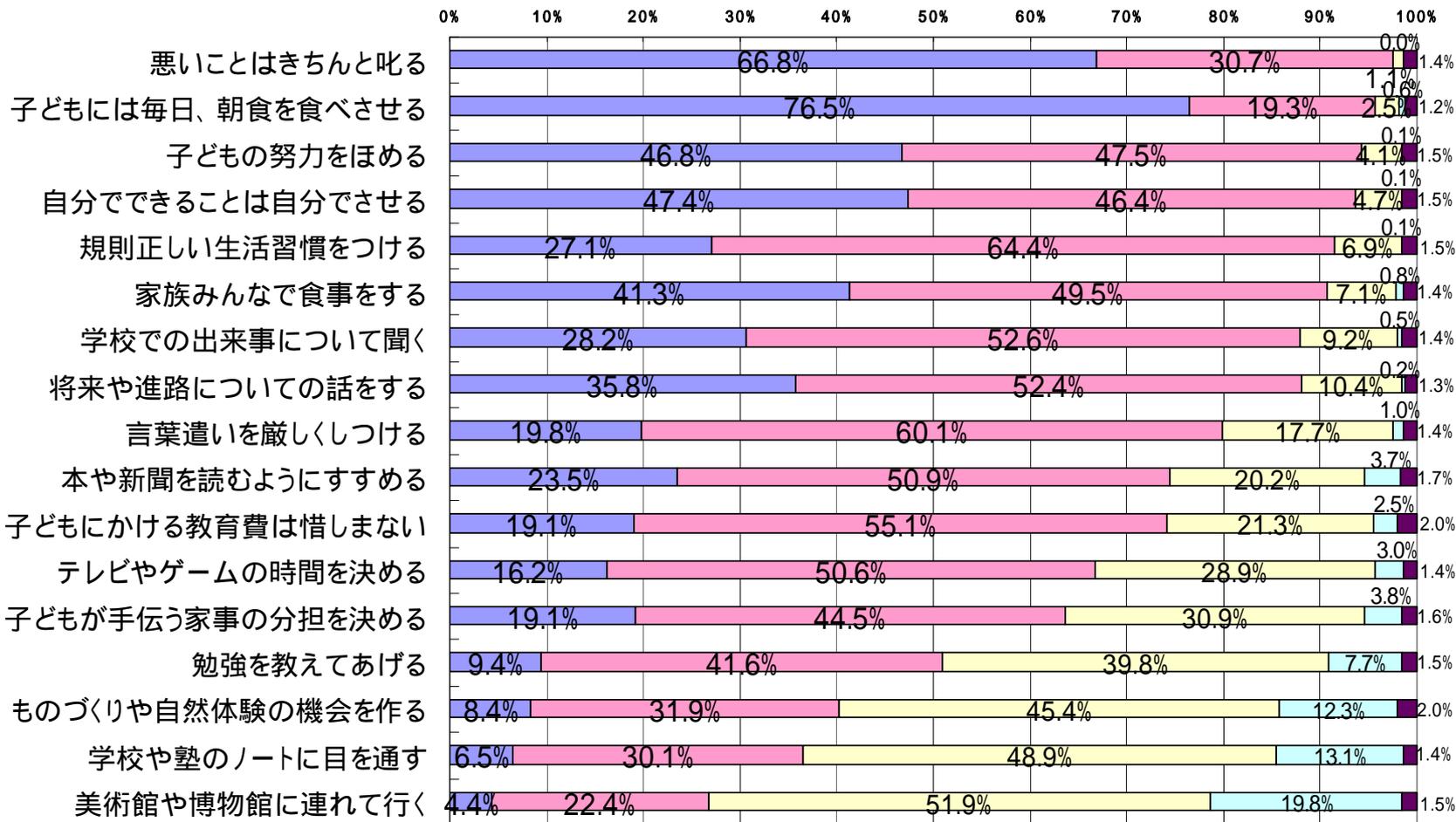


## 2-2 家庭教育で心がけていること

### 家庭教育で心がけていること(小学生保護者)



# 家庭教育で心がけていること(中学生保護者)

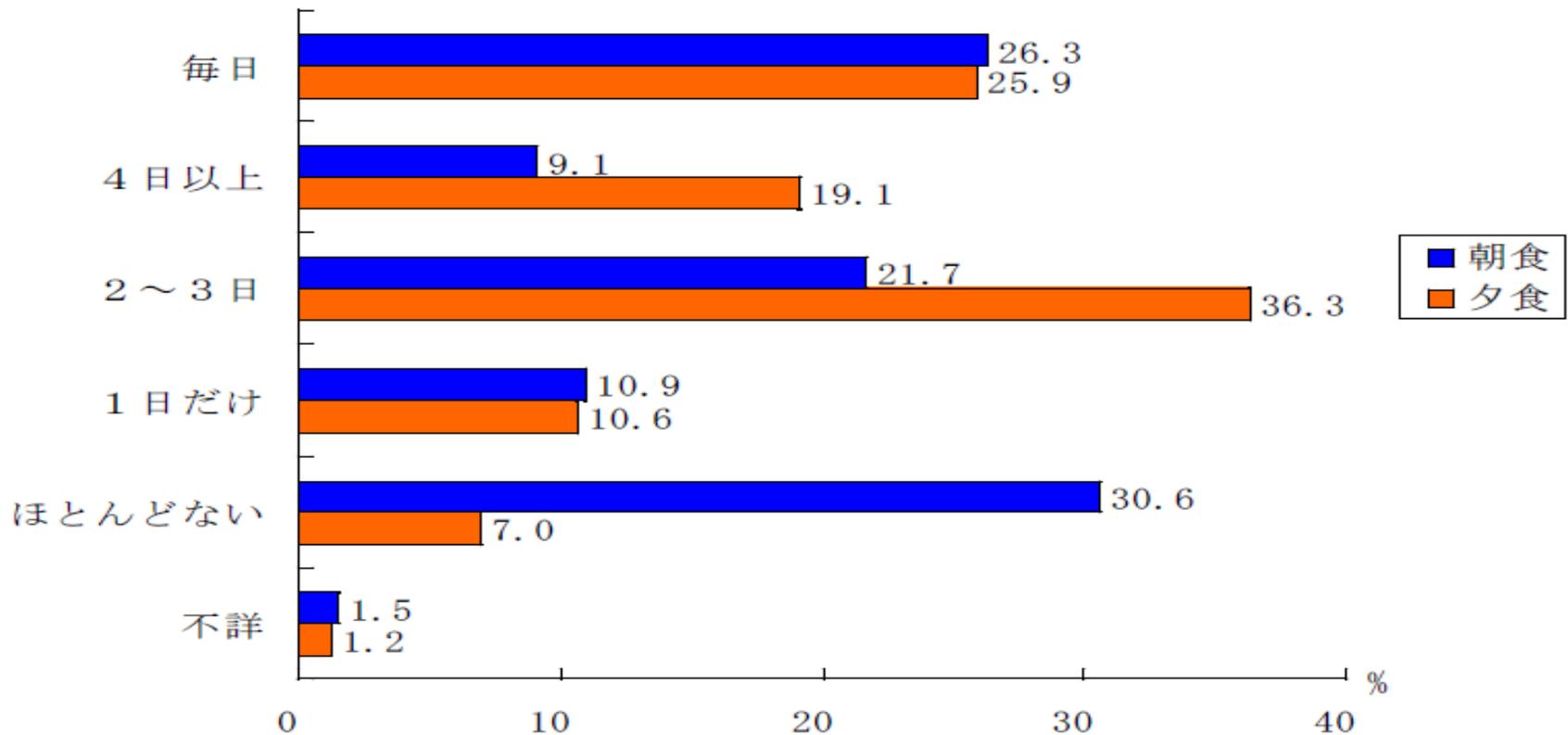


■ とても心がけている
 ■ まあ心がけている
 ■ あまり心がけていない
 ■ まったく心がけていない
 ■ 無答・不明

## 2-3 一週間のうち、家族揃って食事をする日数

家族揃って一緒に朝食を食べる日数は、「ほとんどない」が30.6%と最も多く、  
家族揃って一緒に夕食を食べる日数は、「2～3日」が36.3%と最も多い。

一週間のうち、家族そろって一緒に食事（朝食及び夕食）をする日数（平成16年）

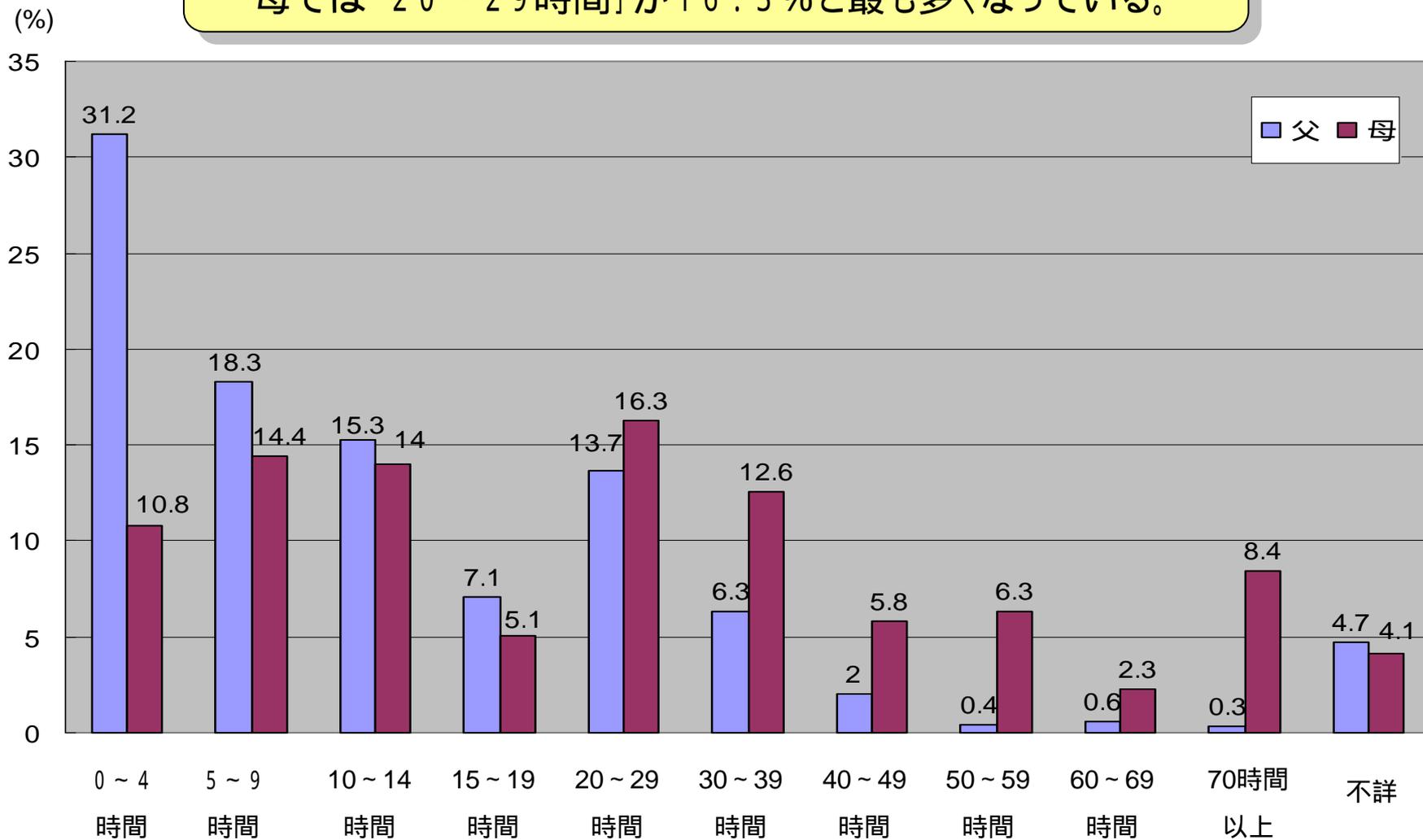


調査対象総数: 1376世帯

厚労省「平成16年度全国家庭児童調査」

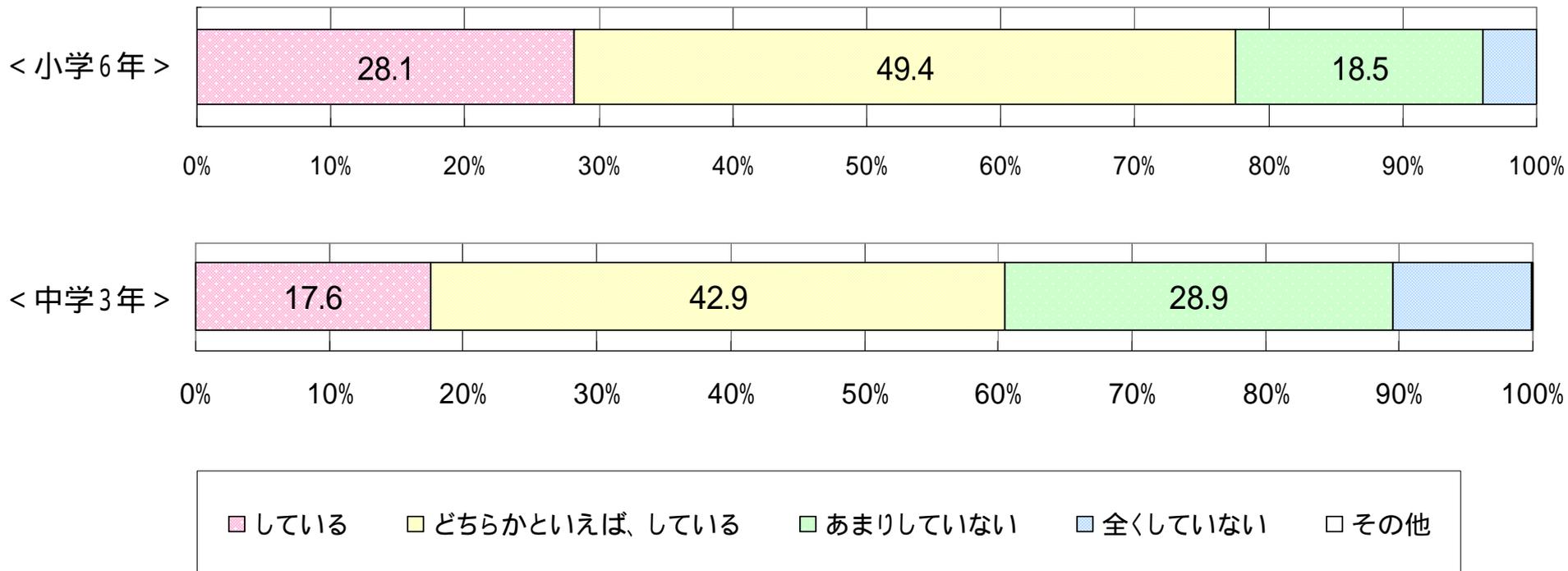
## 2-4 父母と子どもたちとの会話時間（1週間あたり）

父では「0～4時間」が31.2%と最も多く、  
母では「20～29時間」が16.3%と最も多くなっている。



## 2-5 家で手伝いをしている子どもの割合（小・中学生）

家で手伝いを「している」とする割合は、小学6年で28.1%、中学3年で17.6%、  
「どちらかといっている」とする割合は、小学6年で49.4%、中学3年で42.9%



## 2-6 父母のしつけについてどう思っているか

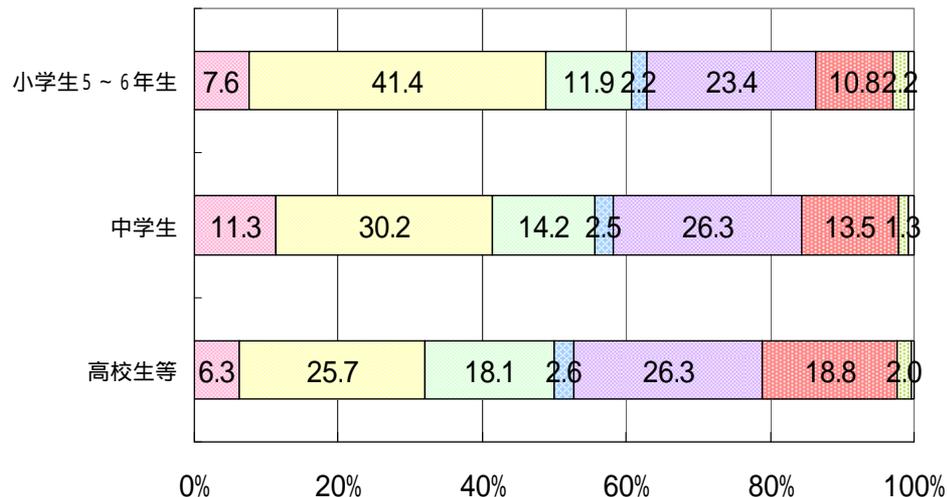
父母のしつけについて子どもがどう思っているかの状況を見ると、父では「どちらともいえない」が、母では「やや厳しいと思う」が最も多い。

【父親】



■ とても厳しいと思う
 ■ やや厳しいと思う
 ■ やや甘いと思う
 ■ とても甘いと思う
 ■ どちらともいえない
 ■ わからない
 ■ お父さんはいない
 ■ 不詳

【母親】



■ とても厳しいと思う
 ■ やや厳しいと思う
 ■ やや甘いと思う
 ■ とても甘いと思う
 ■ どちらともいえない
 ■ わからない
 ■ お父さんはいない
 ■ 不詳

## 2-7 子育てに関する不安や悩みの種類 (18歳未満の子どもを持つ親)

親の不安・悩みとしては、小学校低学年以下については「しつけに関すること」が、小学校高学年以上では「勉強や進学に関すること」が最も多い。

不安や悩みの種類	未就学	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中学校	高校生等
子どものしつけに関すること	59.5	58.8	53.0	46.4	34.7
子どもの健康に関すること	35.4	29.7	32.7	27.6	24.9
子どもの勉強や進学に関すること	30.8	57.1	61.4	74.5	69.4
子どもの就職に関すること	5.7	11.7	15.2	25.1	35.6
子どもの性格や癖に関すること	49.1	51.1	38.3	32.8	21.1
子どもの暴力や非行に関すること	4.2	5.9	6.5	5.9	2.8
子どものいじめに関すること	9.6	16.6	14.3	9.6	6.3
子どもの友人に関すること	15.6	24.4	22.2	17.2	10.7
子どもの性に関すること	3.5	7.5	8.9	10.9	9.5
子どもが保育園や幼稚園、学校に行くのを嫌がること	6.6	4.9	6.3	7.3	5.4
子どもの育て方について、自信が持てないこと	24.8	22.7	20.3	21.3	13.2
子どものことに関して、家族が協力してくれないこと	8.3	9.8	8.4	6.7	7.9
家の近所の環境がよくないこと	6.9	6.1	7.0	5.9	4.7
その他	1.9	0.5	0.5	0.4	-
特に不安や悩みはない	17.1	14.5	16.4	14.4	19.9

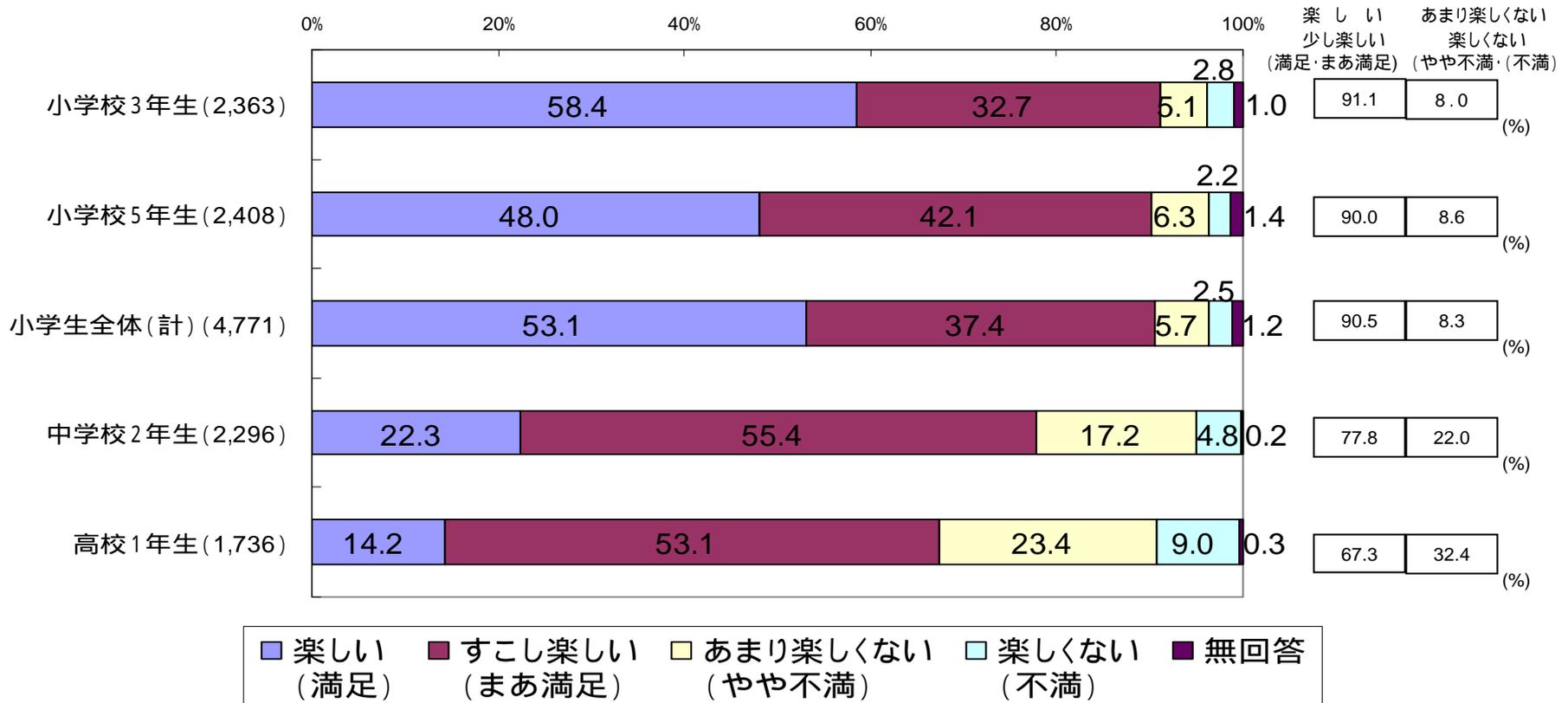
注) 「高校生等」とは「高校」、「各種学校・専修学校・職業訓練校」の合計である。

資料: 厚生労働省 平成16年度全国家庭児童調査

# 3 学校教育

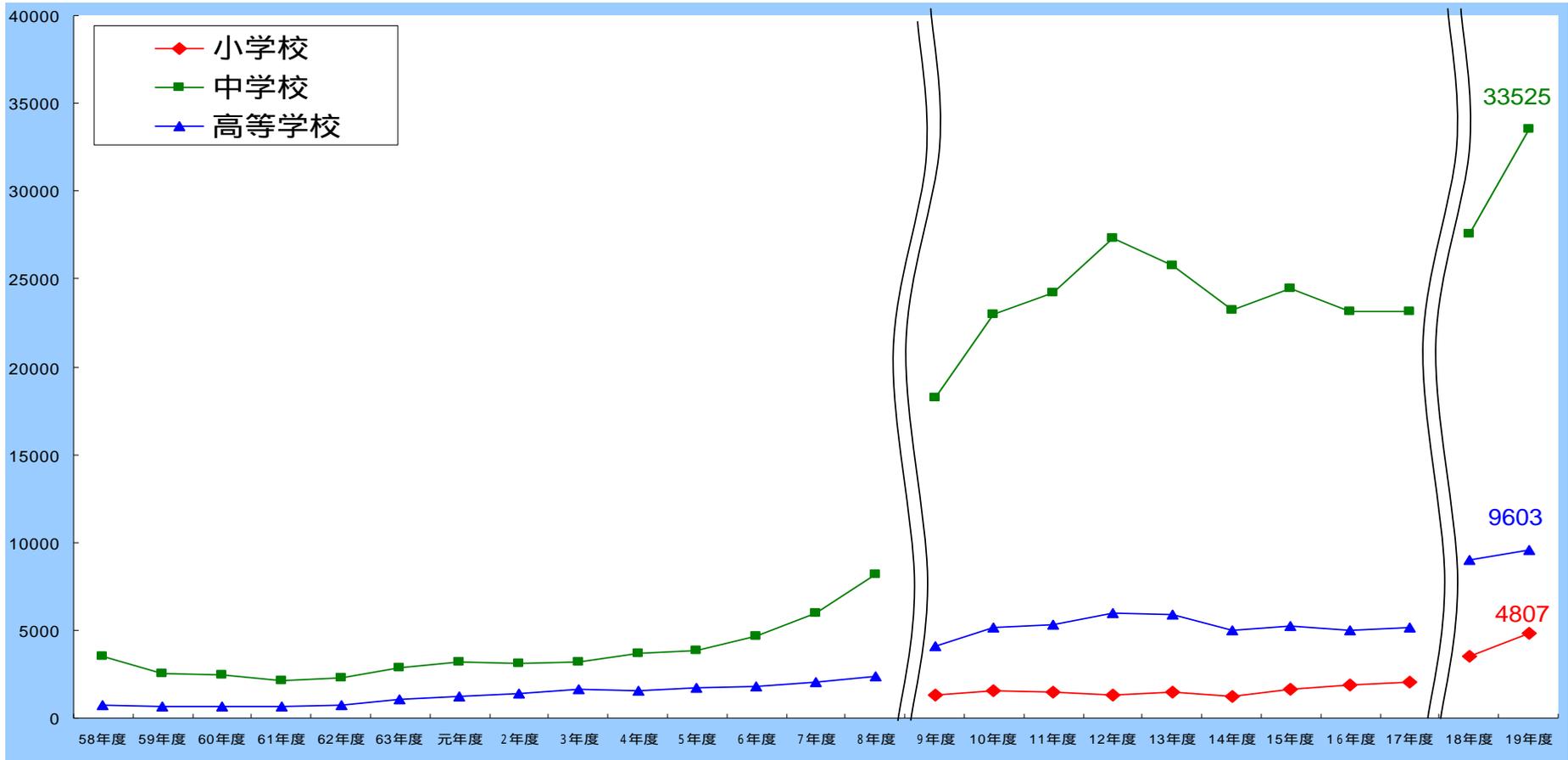
# 3-1 学校生活への満足感

学校生活の満足度について、「楽しい(満足)」と感じている者が、小学校(3・5年)では53.1%、中学校(2年)では、22.3%、高校(1年)では、14.2%と、学校段階によって差がある。



## 3-2 校内における暴力行為発生件数の推移

平成19年度の学校内における暴力行為は小中高合わせて約4万8千件であり、前年度(約4万件)と比べ約8千件の増加となっている。



(注1)平成8年度までは、公立中・高等学校を対象として、「校内暴力」の状況について調査。

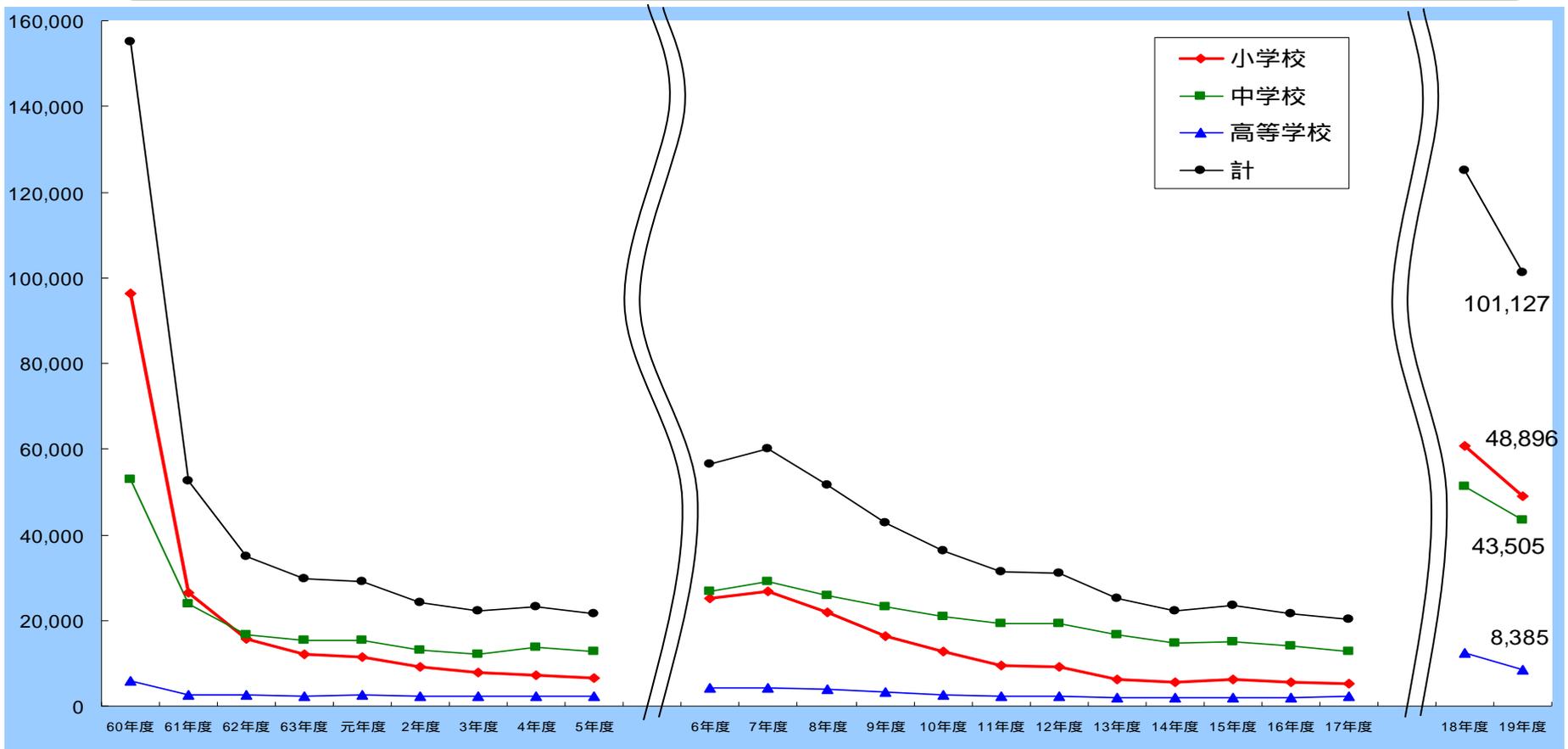
(注2)平成9年度からは、公立小学校を調査対象に加えるとともに、調査方法等を改めている。

(注3)平成18年度からは、国・私立学校も調査。

資料：文部科学省「平成19年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

# 3-3 いじめの認知件数の推移

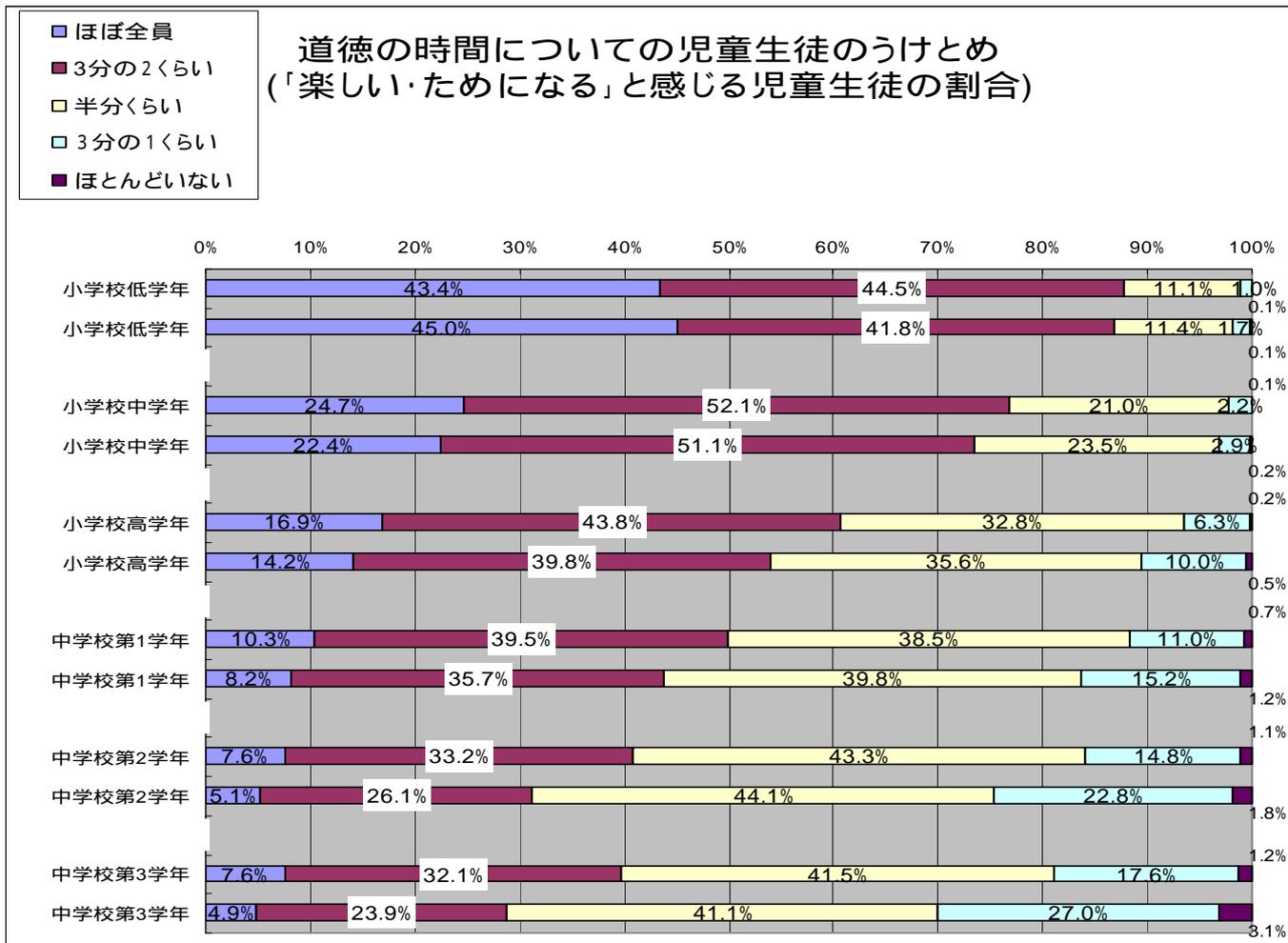
平成19年度のいじめの認知件数は約10万1千件であり、前年度(約12万5千件)より約2万4千件減少しているが、依然として相当数に上る。



- (注1) 平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国・私立学校も調査。
- (注2) 平成6年度及び平成18年度に調査方法等を改めている。
- (注3) 平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。

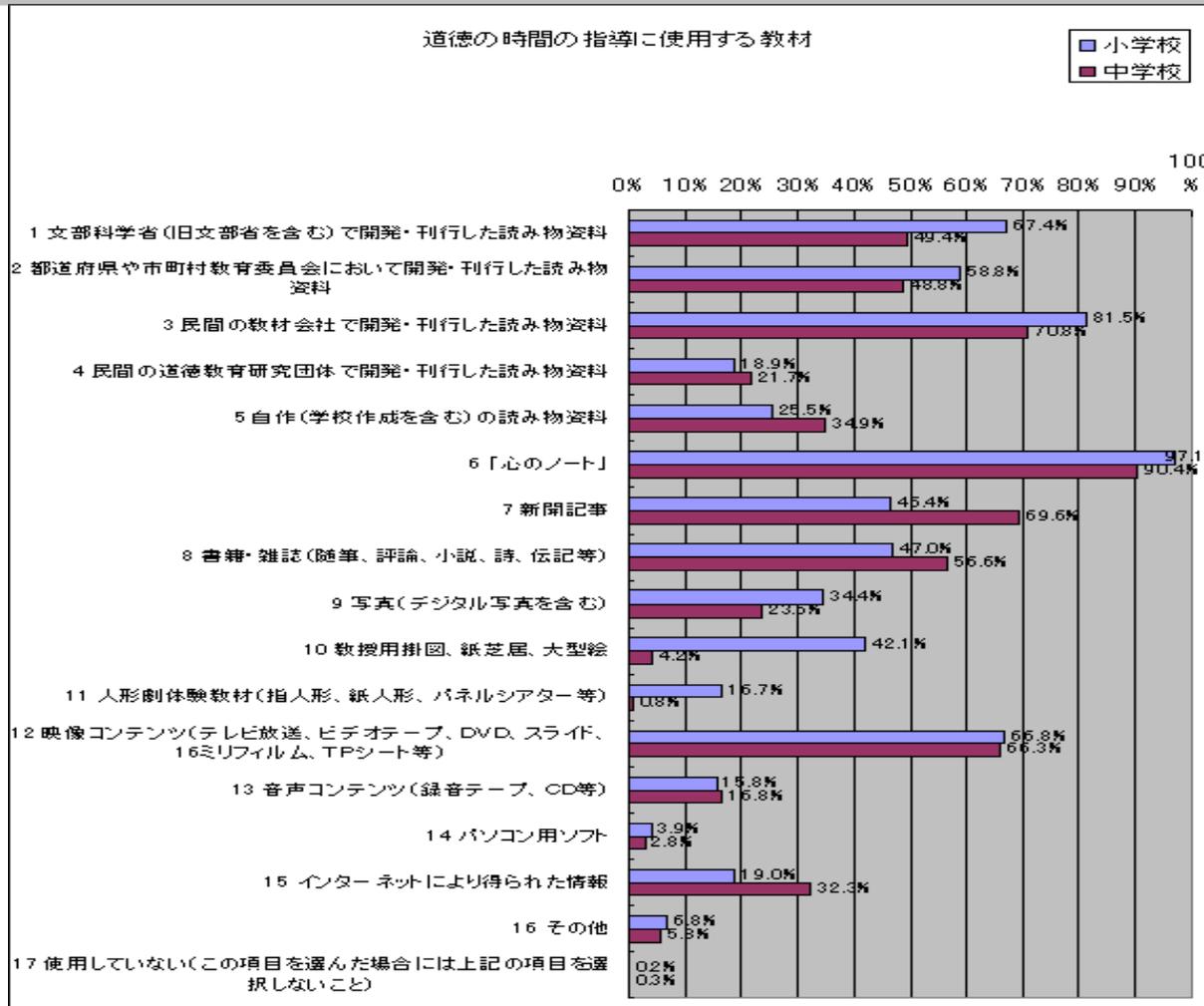
# 道徳の時間についての児童生徒のうけとめ

学年が上がるにつれて、道徳の時間を「楽しい・ためになる」と感じる子どもの割合が少なくなる。



# 道徳の時間で使用する教材

多くの学校で、「心のノート」や「読み物資料(副読本)」が使用されている。



### 【3-4 道徳教育】

## 諸外国の学校における道徳教育

	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス
対応する教科等	<p>「キャラクターエデュケーション (Character Education)」や「価値教育 (Values Education)」などの名称がある。特に定まった教科はない。</p> <p>～ キャラクターエデュケーションを必修と定めている州もある。</p>	<p>「市民性」 (Citizenship)</p> <p>「PSHE」 (Personal, social and health education)  <b>人格および社会性の発達のための教育・健康教育</b></p> <p>～ 特設時間、他教科等様々な場面で展開される。</p>	<p>「倫理」、「哲学」等、名称は州によって異なる。</p> <p>〔主に正科である「宗教科」の代替科目〕</p> <p>宗派による宗教教育が基本法によって正規の科目と定められ、ほとんどの州で必修となっている。</p>	<p>教科「公民」のほか、学校の教育活動全体を通して、「市民性教育」 (Éducation à la citoyenneté) を実施。</p>
配置されている学年*	各学校に任されている。	<p>「PSHE」と「市民性」の融合； 1 - 6 [5～10歳]</p> <p>「市民性」； 7 - 11 [11～15歳]</p> <p>「PSHE」； " [ " ]</p>	5 - 13 [10歳～18歳] の間で設置。	1 - 12 [6歳～17歳]
内容	<p>キャラクターエデュケーションを実施する多くの州に共通する内容としては、<u>信頼</u>、<u>責任</u>、<u>尊重</u>、<u>公正</u>、<u>思いやり</u>、<u>市民性</u>の6つがある。</p> <p>主に、学校専任のカウンセラーがプログラムを企画・実施している。近年では、プログラムにサービラーニング (社会体験学習) を取り入れる学校が多い。</p>	<p>「市民性」； 情報に通じた市民になるための知識と理解、探究やコミュニケーションのためのスキルの発達、参加と責任ある行動のためのスキルの発達など</p> <p>「PSHE」； 自信と責任性の発達や自分の能力を最大限発揮させること、健康的で安全なライフスタイルの発達、人との良い関係をつくること、人との違いを尊重することなど</p>	<p>ブランデンブルク州の「生活形成・倫理・宗教」では、以下の6つのテーマ領域を設定している。</p> <p>社会的な諸関係、 実存的経験 個の発達課題 世界、自然、人間 世界像、文化、文化相互 のかかわり 平和と正義 - 世界への希望</p>	<p>教科「公民」における学習は、集団を形成する市民として民主主義に関わる諸価値をはぐむことを目標としている。したがって、社会倫理 (他者との共生、権利・義務、個人の尊厳、愛国心、社会生活の基本としての法制的認識と自律的市民としての行動原理など) に重点が置かれている。</p> <p>「市民性教育」は、各学校が独自にテーマを設け、教科横断的学習や体験活動を行う。</p>

	韓 国
対応する 教科等	「道徳」
配置され ている学 年*	3 - 10 [8 ~ 15歳]  上のほか、 ・ 1 - 2 [6・7歳] では、「正 しい生活」 ・ 11 - 12 [16・17歳] では、 「市民倫理」、「倫理と思想」、 「伝統倫理」から選択
内 容	内容項目は、 個人生活 家庭・近隣・学校生活 社会生活 国家・民族生活 の4つの視点で分類されてい る。

( 参考 )

	日 本
	「道徳の時間」 道徳教育は、「道徳の時間」を要として 学校の教育活動全体を通じて行うこと とされ、「道徳の時間」はこれらを補充・深 化・統合するもの。
	1 - 9 [6 ~ 15歳]
	道徳教育の内容項目は、 主として自分自身に関する こと 主として他の人とのかわり に関すること 主として自然や崇高なも とのかわりに関すること 主として集団や社会とのか わりに関すること の視点で分類されている。

\* 「配置されている学年」については、就学開始年から通年した表記としている。

（ 「道徳・特別活動カリキュラムの改善に関する研究 - 諸外国の動向 - 」(平成14年3月国立教育政策研究所)及び「諸外国の教育課程(2) 教育課程の基準及び各教科等の目標・内容構成等」(平成19年3月国立教育政策研究所)を基に作成 ）

# 3-5 学校における体験活動の実施状況

小・中・高校において、それぞれ年間40授業時間程度の体験活動が行われている。

## 1年間で実施する体験活動の総単位時間

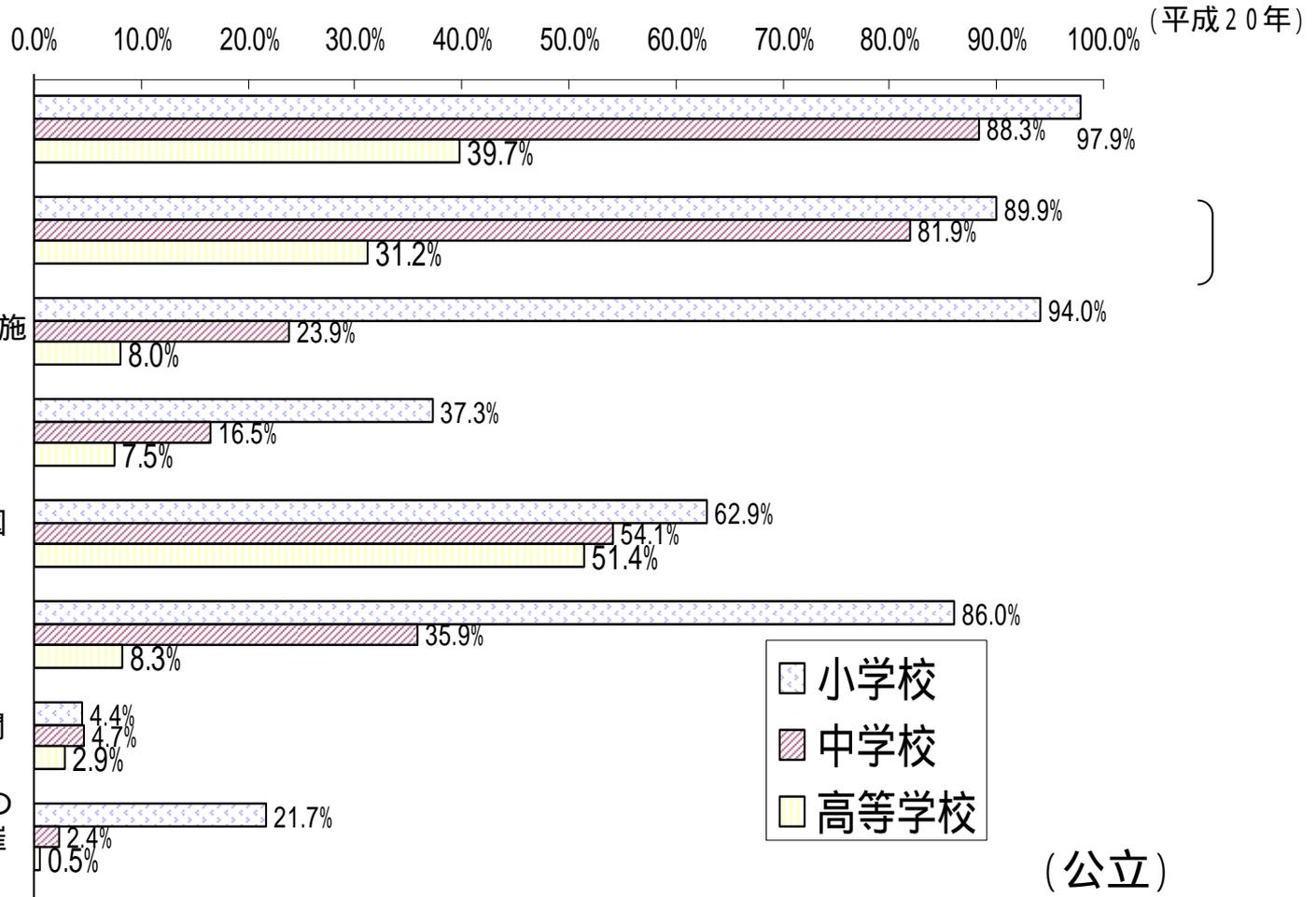
	小学校	中学校	高等学校
<b>ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動</b> (町内や海岸の清掃、地域環境整備・美化活動、社会福祉施設の訪問、その他のボランティア活動など)	3.1時間	2.5時間	2.9時間
<b>自然に親しむ体験活動</b> (野外探索や野外生活、野鳥や小動物の観察、自然教室など)	13.3時間	5.0時間	3.3時間
<b>勤労生産及び職場・職業・就業等に関わる体験活動</b>	12.6時間	20.1時間	23.6時間
第一次産業に関わる産業 (田植え、下草刈り、地引き網等の農林漁業体験など)	10.6時間	2.4時間	5.2時間
第二次産業に関わる産業 (工場等での職場体験活動、インターンシップなど)	0.8時間	4.9時間	10.1時間
第三次産業に関わる産業 (地域の事務所、店舗等における職場体験活動、インターンシップなど)	1.2時間	12.8時間	8.3時間
<b>文化や芸術に親しむ体験活動</b> (壁画の制作活動、日本や外国の文化・伝統の体験活動、地域の伝統行事や芸能・工芸等の伝承活動など)	3.6時間	3.7時間	2.9時間
<b>交流に関わる体験活動</b> (幼児、高齢者、障害者、外国人、異なる地域の人々等との交流活動)	5.0時間	2.3時間	3.6時間
<b>その他の体験活動</b>	3.3時間	2.3時間	3.0時間
<b>計</b>	<b>41.0時間</b>	<b>35.9時間</b>	<b>39.2時間</b>

平成18年度抽出調査  
(文部科学省)

- (1) 調査対象校：小・中・高等学校 計564校(小学校、中学校、高等学校各188校)  
 (2) 数字は、小学校は5年生、中学校・高等学校は2年生の1年間で実施する体験活動の総合単位時間の平均

# 3-6 学校における読書活動の取組状況

小学校・中学校を中心に、全校一斉の読書活動(朝の読書活動)等の取組が広く行われている。

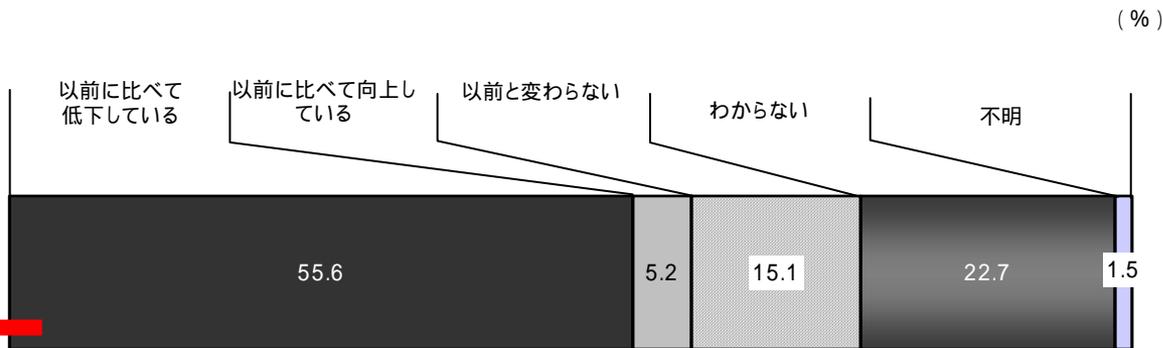


(公立)

## 4 地域の教育力

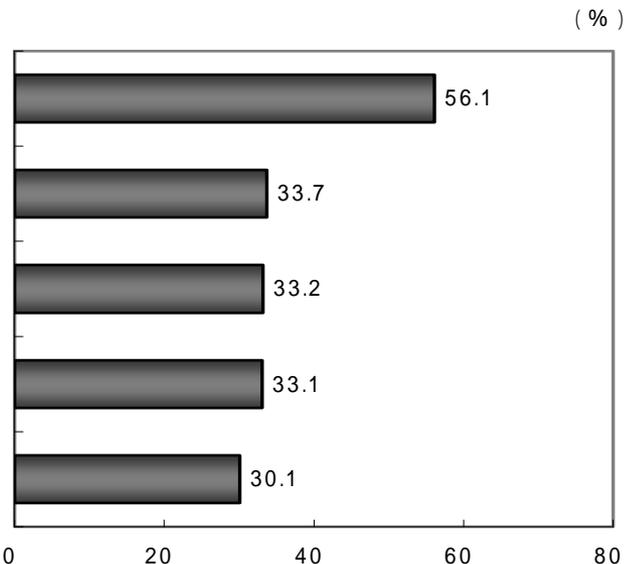
# 4-1 地域の教育力低下に対する認識

保護者に「地域の教育力」を自身の子ども時代と比較してもらったところ、**過半数が「以前に比べて低下している」(55.6%)と回答**している。一方、「以前に比べて向上している」(5.2%)、「以前と変わらない」(15.1%)は低い割合にとどまっている。



## その理由

- 個人主義が浸透してきているので (他人の関与を歓迎しない)
- 地域が安全でなくなり、子どもを他人と交流させることに対する抵抗が増している
- 近所の人々が親交を深められる機会が不足している
- 人々の居住地に対する親近感が希薄化している
- 母親の就労が増加している



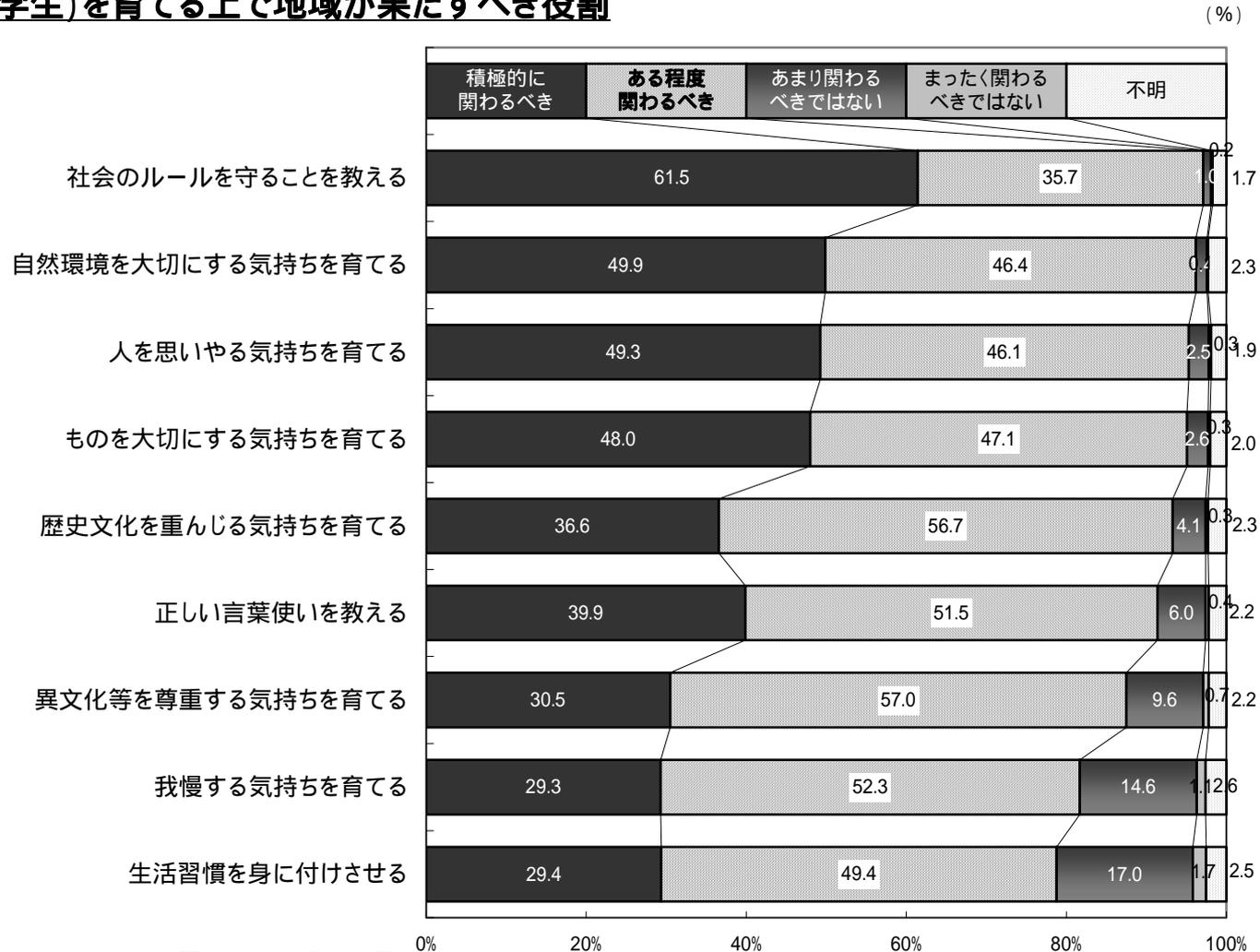
(出典)平成18年3月 文部科学省委託「地域の教育力に関する実態調査」

14項目の中から3つまで選択。上記グラフは上位5項目の回答率。

## 4-2 地域が果たすべき役割

「社会のルールを守ることを教える」について「積極的に関わるべき」が6割以上と最も高い。  
**保護者は、子どもに対して社会規範を教えることを重視していることがうかがえる。**

### 子ども(小・中学生)を育てる上で地域が果たすべき役割

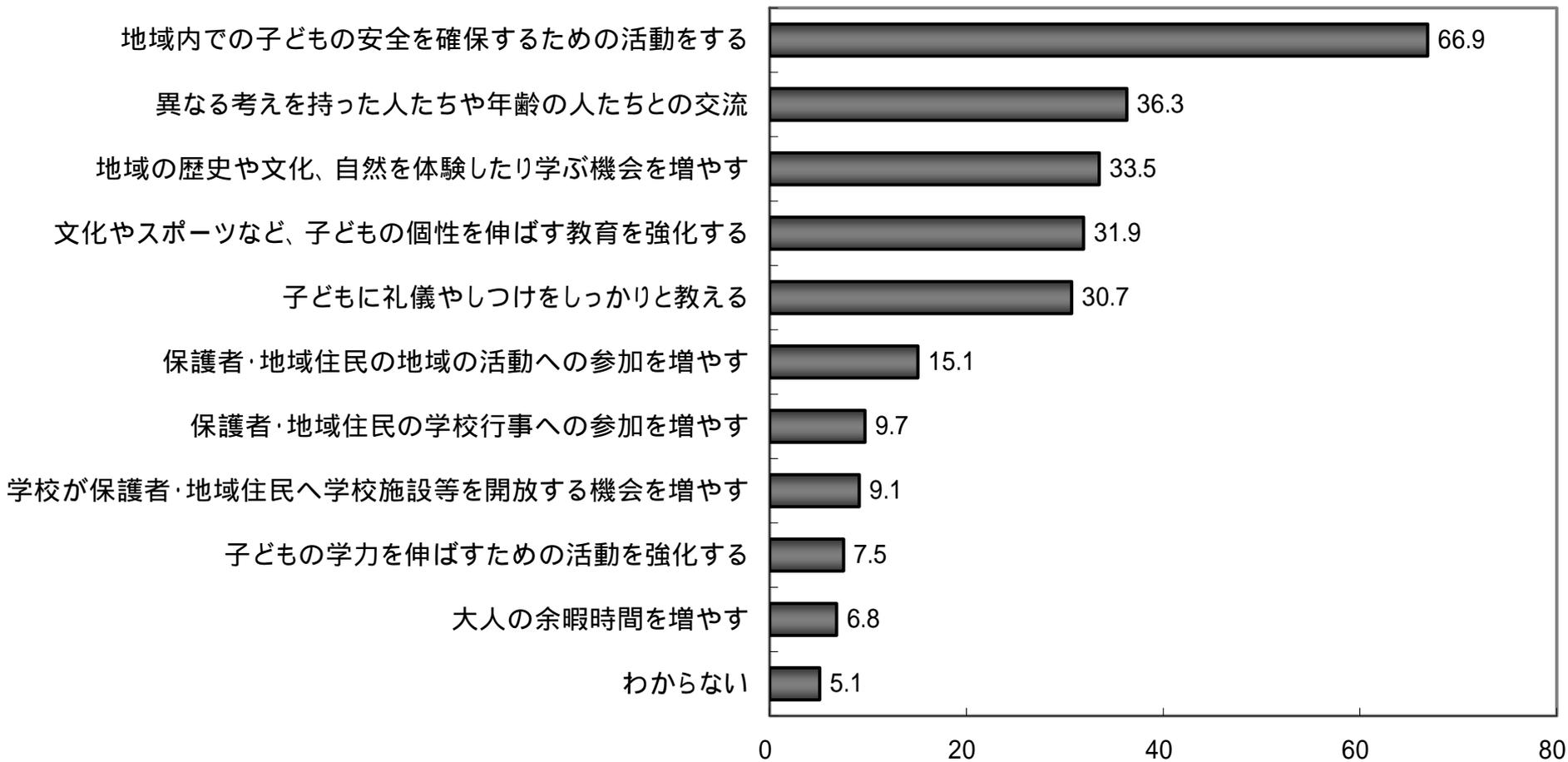


## 4-3 地域で力を入れるべきこと

地域で力を入れるべきこととして、子どもの安全を確保するための活動を挙げる保護者の割合が最も高い。

### 子どもが健やかに育まれるために地域で力を入れるべきこと

(%)

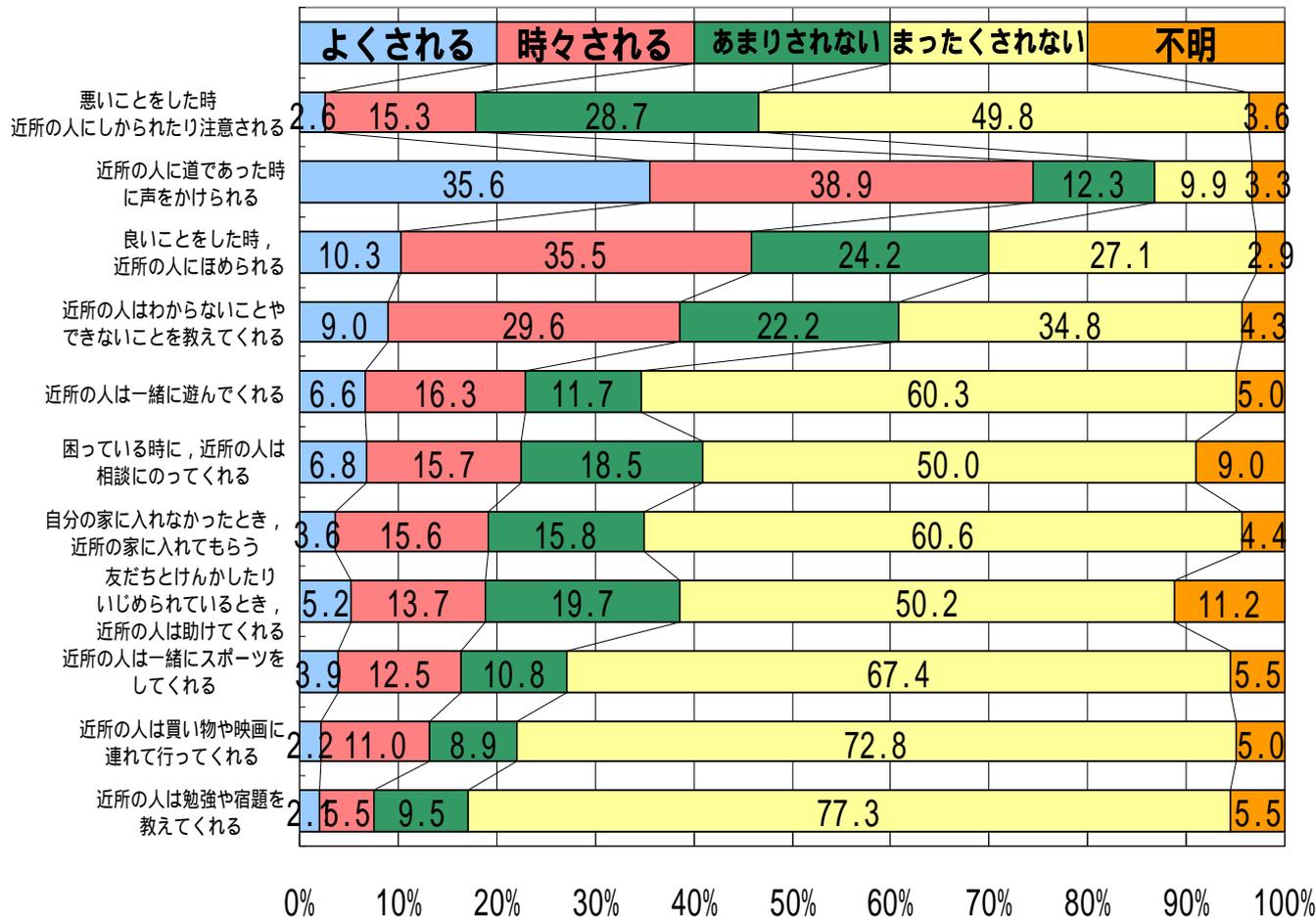


上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

# 4-4 家の人や学校の先生以外の大人から注意された経験

近所の大人からしかられたり助けられたりした経験のある青少年が少ない。

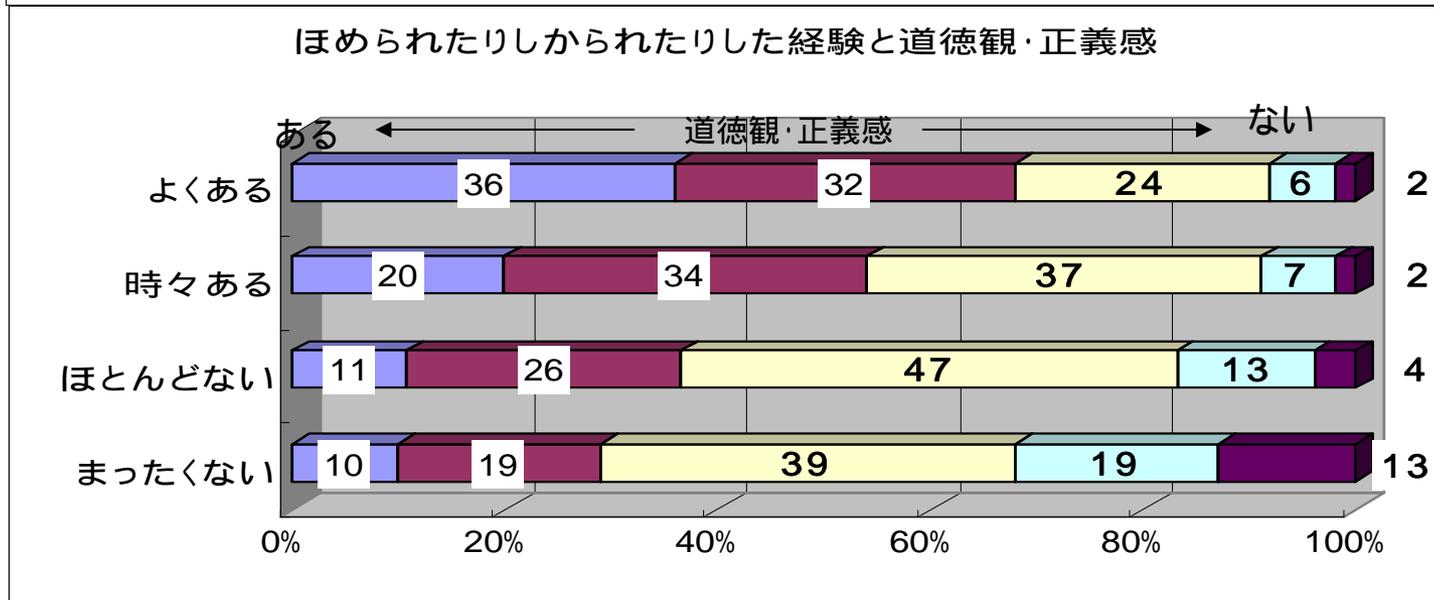
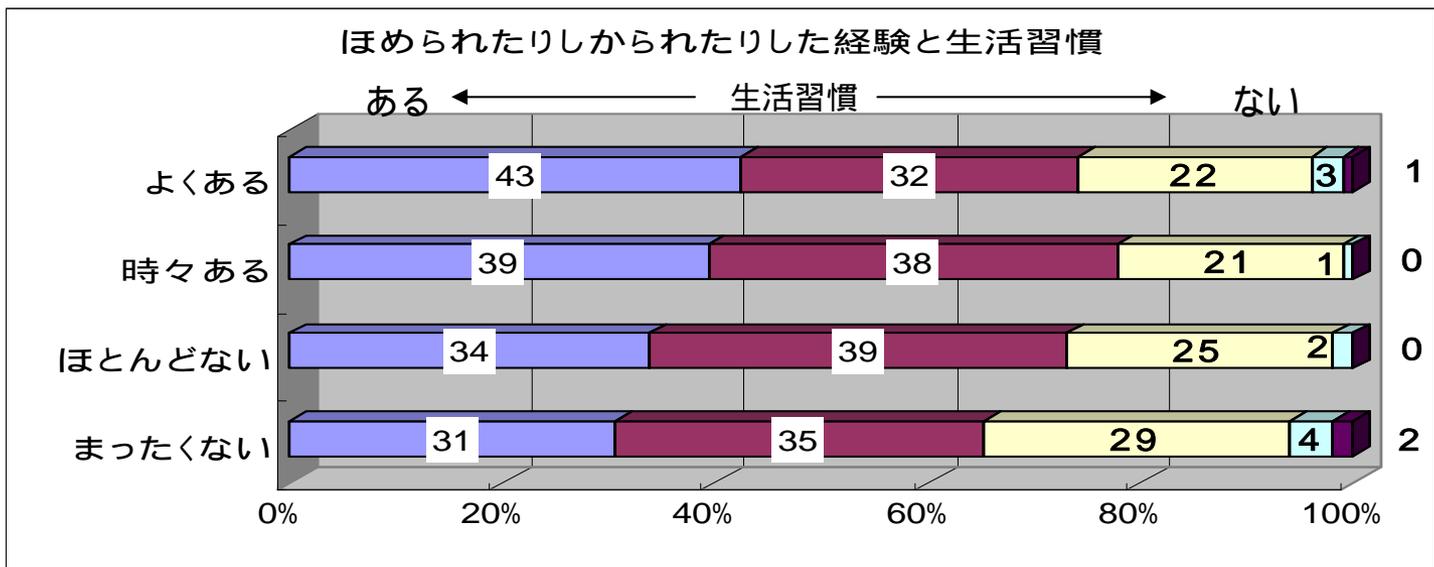
家の近くにいる大人との関わり



小学2・5年生、  
中学2年生

日本総合研究所  
「地域の教育力に関する  
実態調査」(平成18年)

大人からほめられたりしかられたりした経験の多い小中学生には、生活習慣や道徳観・正義感が身に付いている者が多い。



## 過去1年間の地域活動への参加率

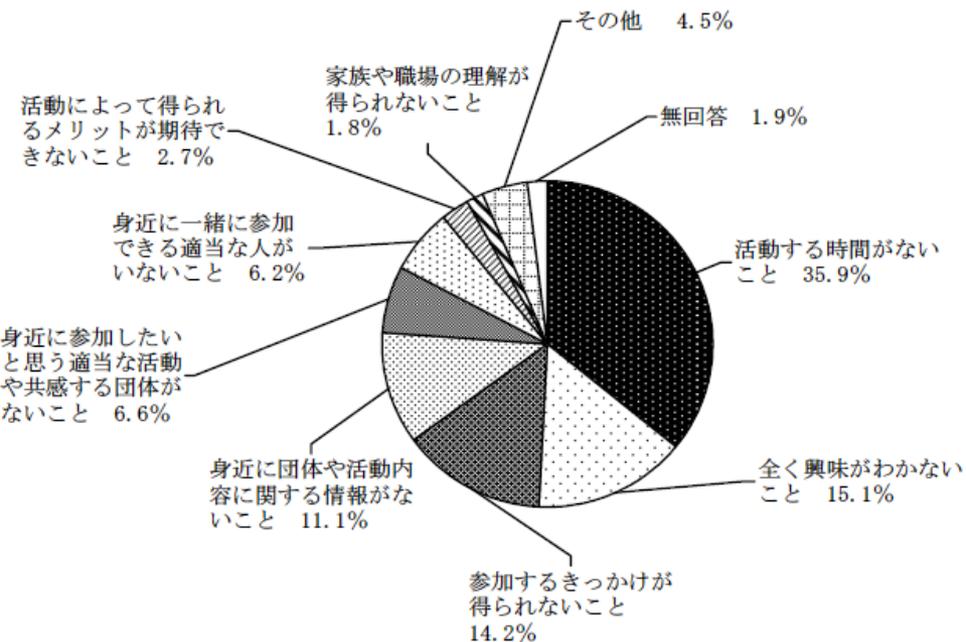
男女とも10・20代の「地域活動参加なし」が約6割。(教育・文化については、男性40代と女性30・40代が他の年代に比べ相対的に高く、約2～3割。)

**教育を含め、様々な地域活動へ参加している人の割合は、各分野とも総じて低い割合にとどまっている。**

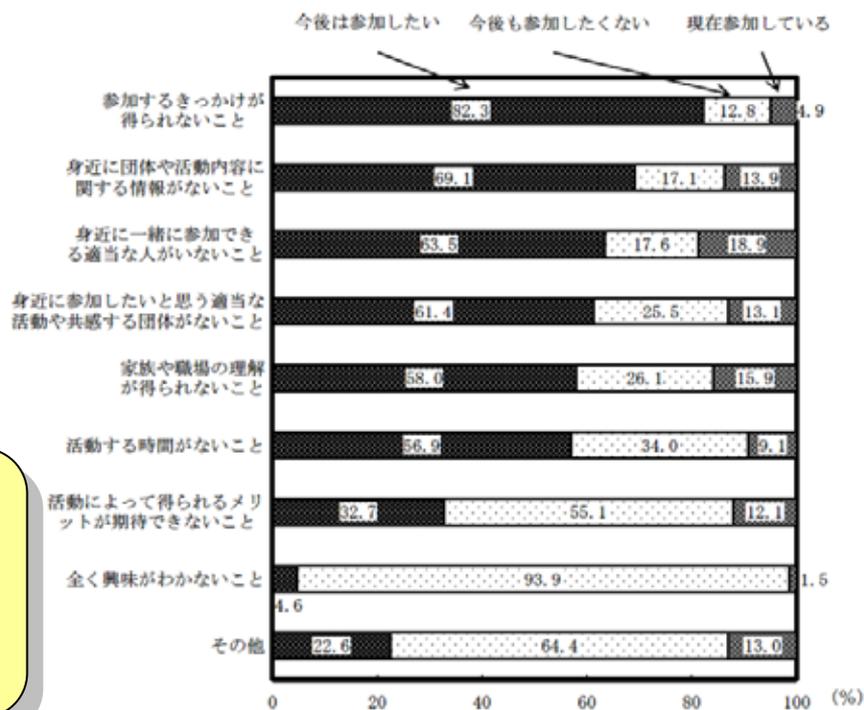
	N	地域活動(趣味)	地域活動(健康・スポーツ)	地域活動(教育・文化)	地域活動(環境美化)	地域活動(交通安全)	地域活動(防犯・防災)	地域活動(福祉・保健)	地域活動(祭りなど催し物)	その他	地域活動参加なし
Total	10060	7.2%	22.0%	11.1%	14.5%	5.1%	7.4%	5.5%	30.6%	2.3%	43.4%
男性10代	270	1.1%	21.1%	3.7%	4.1%	1.9%	1.9%	1.5%	22.6%	0.0%	56.7%
男性20代	561	3.7%	12.1%	3.6%	5.3%	1.1%	4.5%	2.1%	16.2%	1.4%	66.5%
男性30代	752	1.7%	17.6%	9.6%	9.8%	2.8%	7.0%	1.6%	27.5%	1.2%	52.8%
男性40代	898	4.3%	28.5%	19.0%	17.5%	6.2%	10.5%	2.9%	34.3%	2.1%	37.2%
男性50代	1071	4.3%	22.0%	7.2%	21.8%	6.6%	11.5%	4.7%	33.5%	2.6%	41.4%
男性60代	1086	10.9%	25.9%	4.7%	22.1%	8.7%	12.2%	7.2%	29.7%	3.9%	37.9%
女性10代	255	2.0%	12.2%	3.9%	4.7%	1.2%	2.4%	3.9%	28.6%	0.4%	59.6%
女性20代	691	2.3%	9.1%	5.6%	5.2%	1.0%	1.2%	3.0%	21.3%	0.4%	64.5%
女性30代	1092	5.2%	21.0%	26.7%	10.9%	6.5%	4.5%	2.6%	38.6%	1.5%	38.7%
女性40代	1091	9.4%	25.0%	22.4%	17.1%	8.5%	6.6%	5.2%	37.5%	2.2%	32.6%
女性50代	1241	12.7%	24.3%	6.0%	15.5%	2.6%	7.7%	8.9%	30.3%	3.0%	39.4%
女性60代	1052	14.3%	27.6%	5.6%	16.0%	5.0%	7.6%	14.3%	28.8%	4.2%	37.1%

# 地域の活動などへの参加を妨げる理由

地域の活動への参加を妨げる要因としては、仕事等のために時間がないこと(約36%)のほかに、参加するきっかけが得られないこと(約14%)や、情報がないこと(約11%)などを挙げる人が多い。



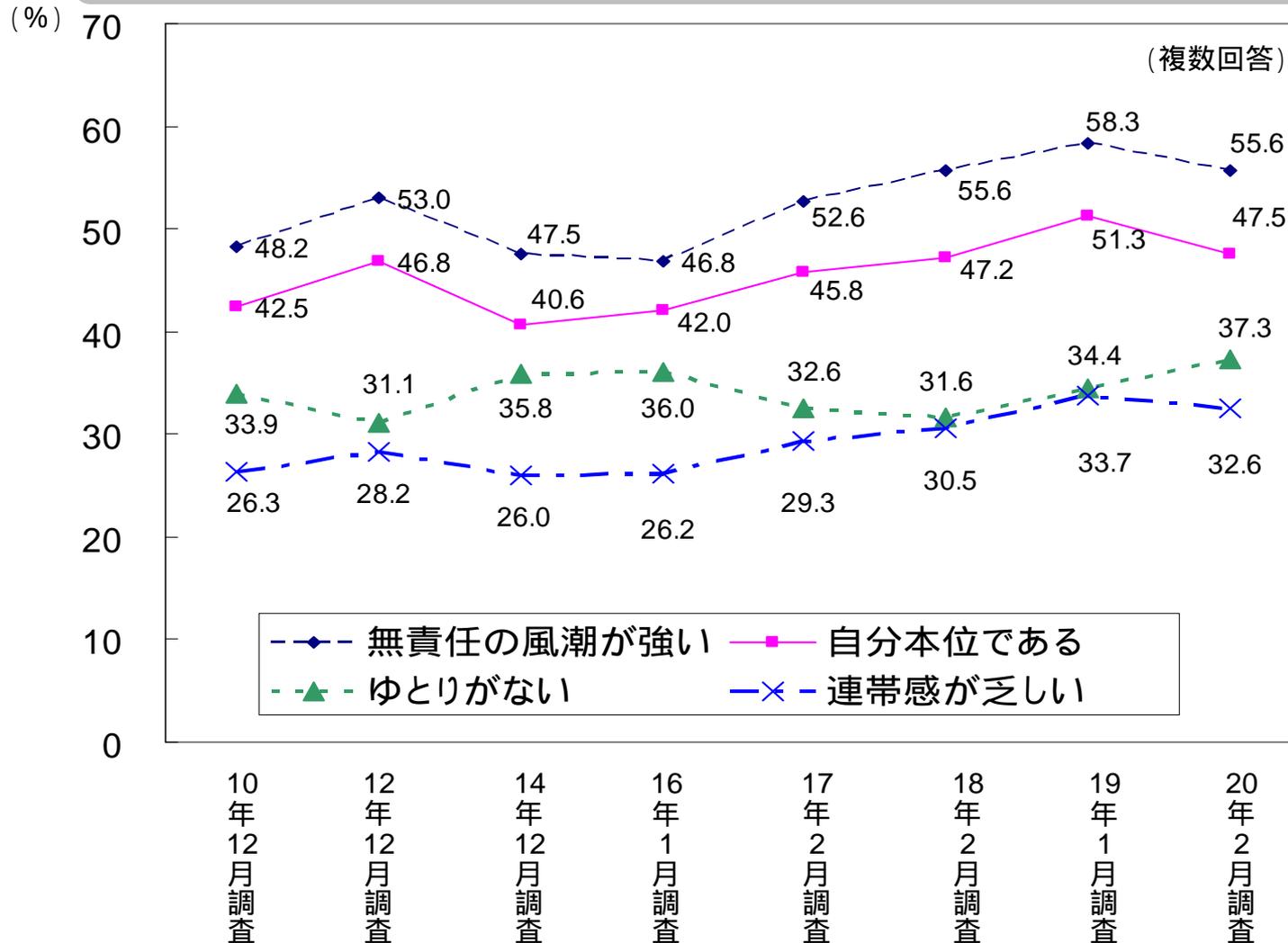
地域の活動などへの参加に関する今後の意向 (参加を妨げる要因別)



参加を妨げる要因として「参加するきっかけが得られないこと」や「情報がないこと」を挙げている人の中には、他の要因を挙げた人に比べ、今後参加したいという希望を持っている人が多く、これらの者は条件が整えば参加する可能性が相当程度あるものと考えられる。

# 4-6 現在の世相に関するイメージ（暗いイメージ）

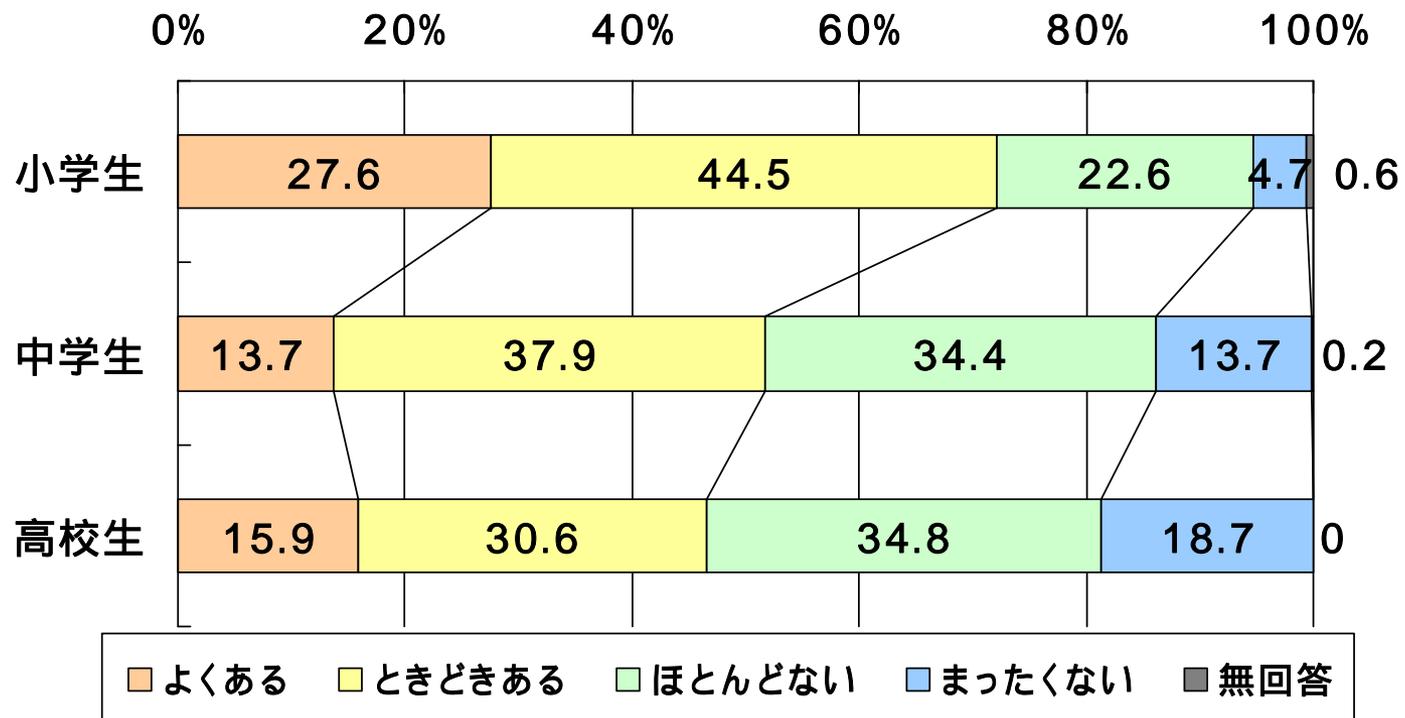
現在の世相に関するイメージ(暗いイメージ)として、「無責任の風潮が強い」、「自分本位である」等を挙げる人の割合が増加傾向にある。



## 4-7 家族以外の異なる世代の人々との交流

中学生、高校生になるにつれて異世代との交流が減少してきている。

家族以外の子どもやお年寄りなど世代の異なる人たちとふれあうことについて



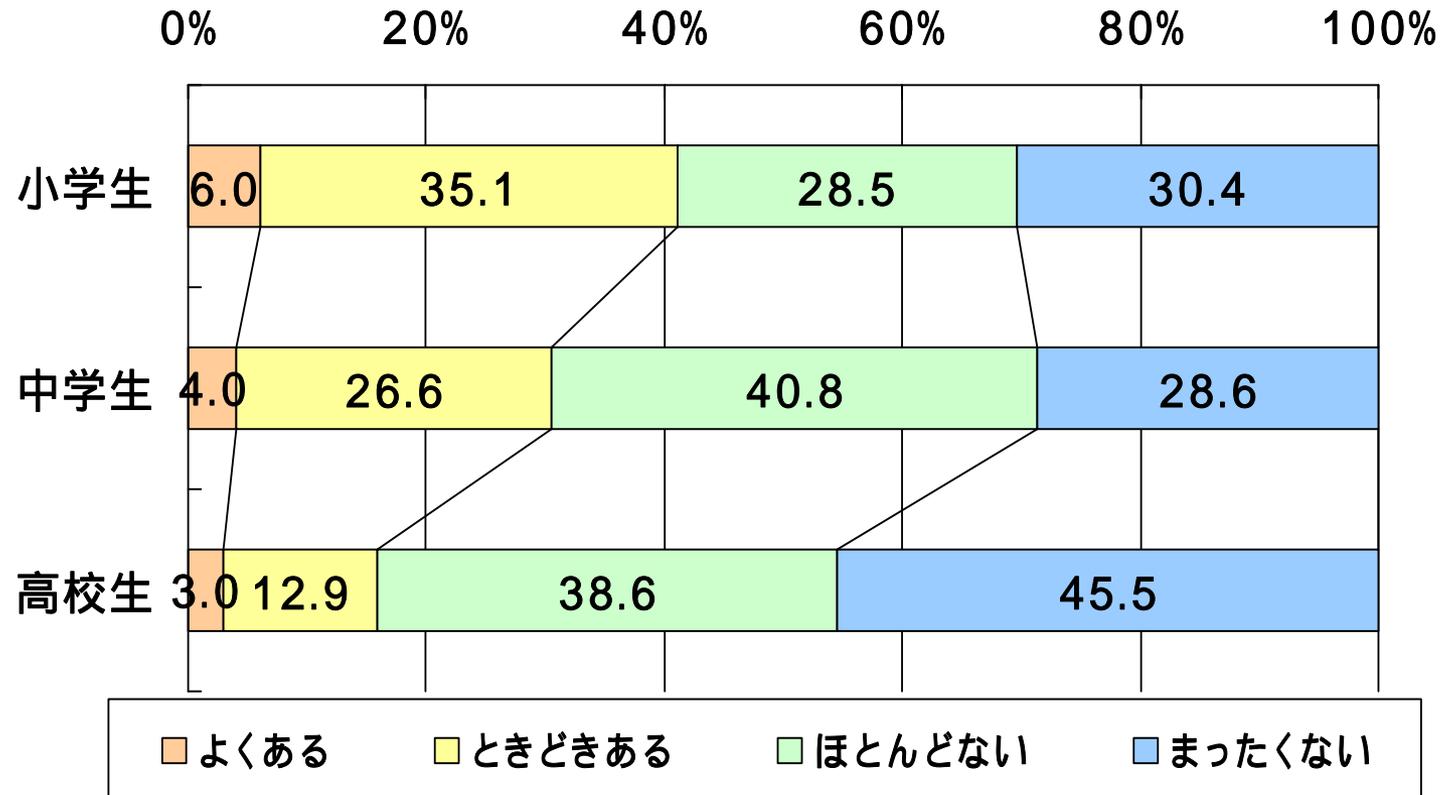
内閣府政策統括官

「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書」(平成19年2月)より作成

## 4-8 ボランティア活動等の参加状況

中学生、高校生になるにつれてボランティア活動等への参加割合が減少している。

地域社会などでボランティア活動やリサイクル運動などに参加することについて



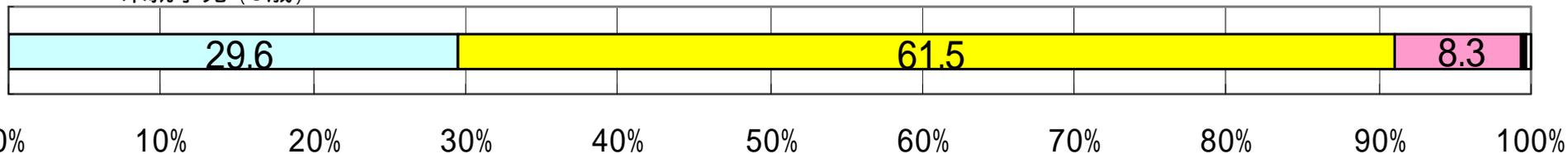
内閣府政策統括官

「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書」(平成19年2月)より作成

# 5 子ども

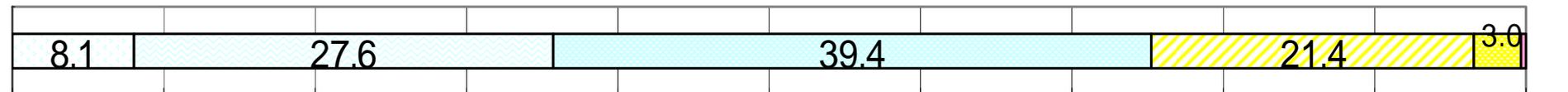
# 5-1 平日の起床時間の状況 (未就学児、小・中学生)

< 未就学児 (5歳) >

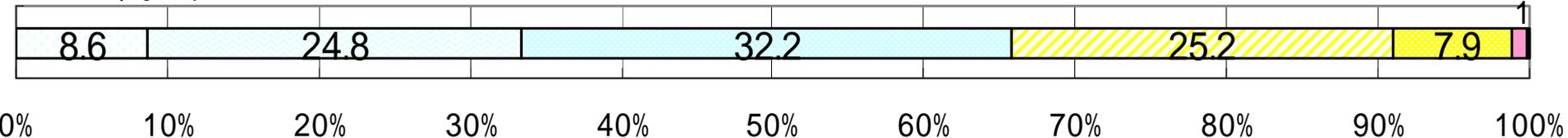


□ 午前7時前    ■ 午前7時台    ■ 午前8時台    □ 午前9時以降    □ 時間が不規則    □ 不詳

< 小学6年生 >



< 中学3年生 >

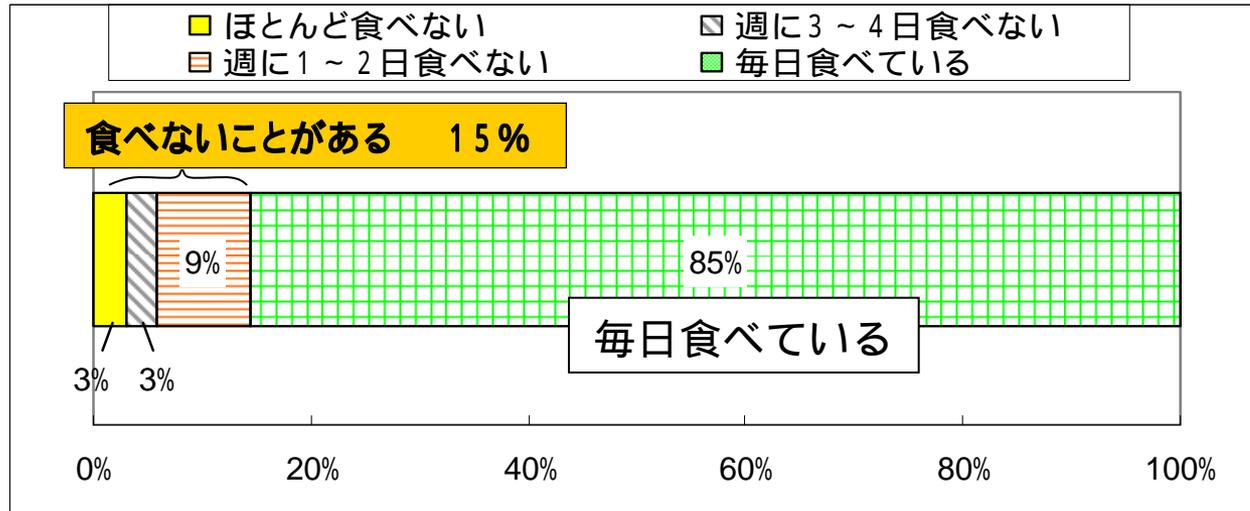


□ 午前6時より前    □ 午前6時以降、午前6時30分より前  
 □ 午前6時30分以降、午前7時より前    ■ 午前7時以降、午前7時30分より前  
 ■ 午前7時30分以降、午前8時より前    ■ 午前8時以降  
 □ その他・無回答

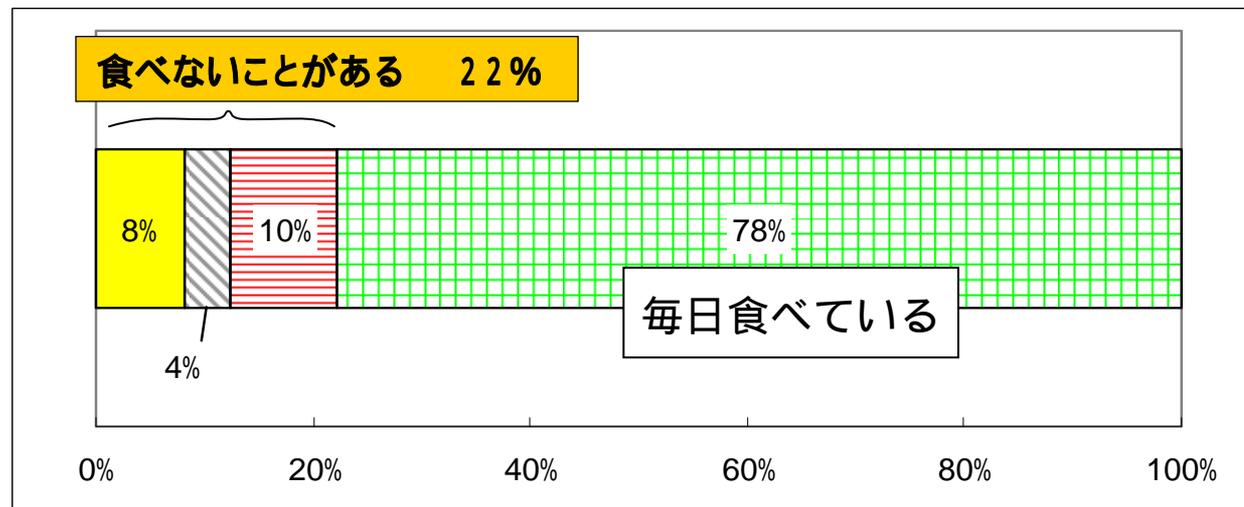
## 朝食を食べないことがある割合

朝ごはんを食べないことのある小・中学生が2割程度いる。

小学生



中学生



調査対象:全国の小中学生・保護者等 36,000名

出典:平成17年度文部科学省委嘱調査「義務教育に関する意識調査」より

## 【5-2 朝食欠食の状況】

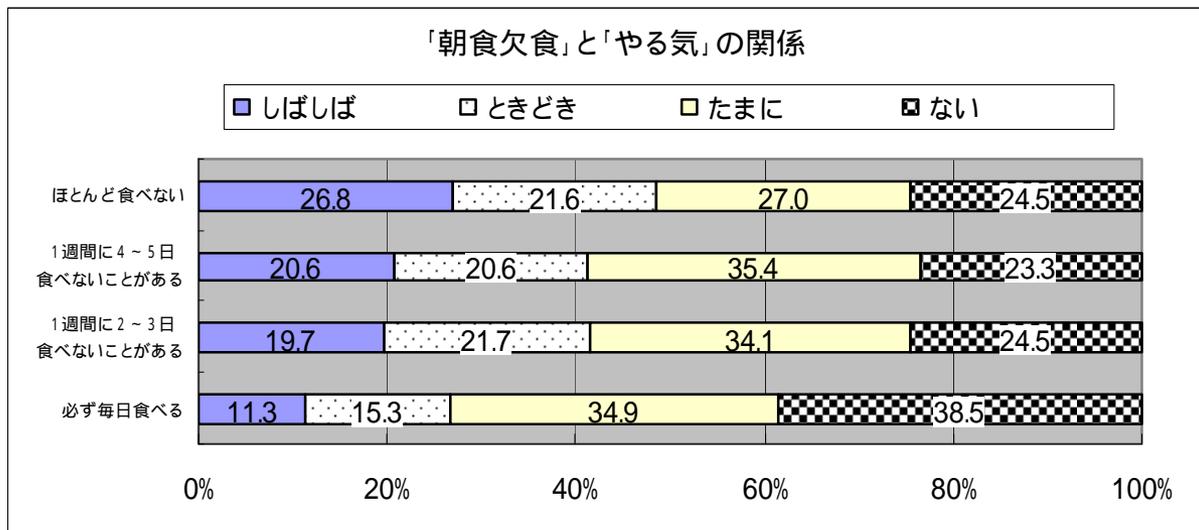
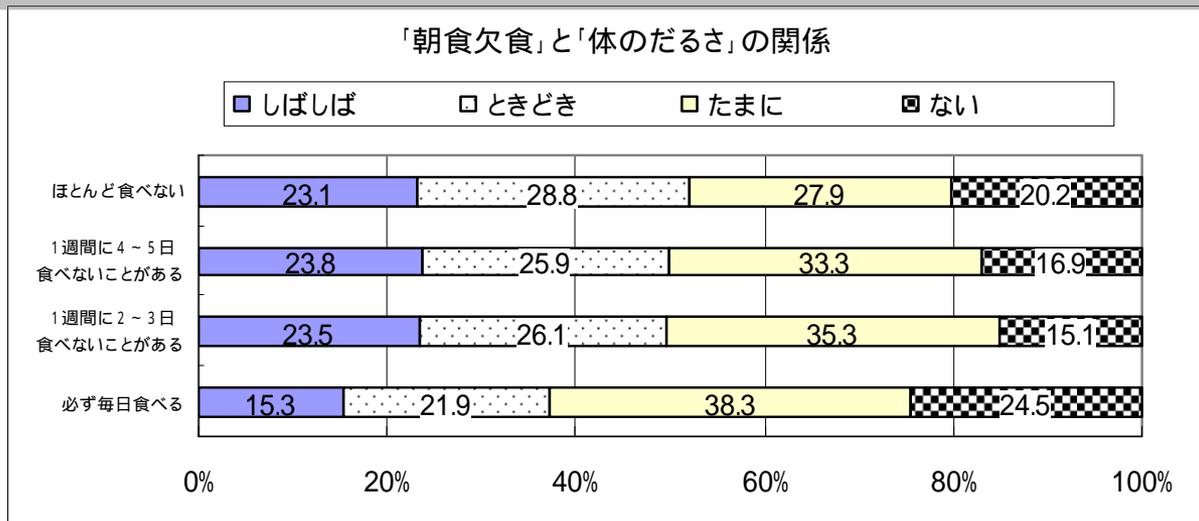
# 朝食を食べなかった理由

朝食を食べなかった理由は、「食べたくなかった」「起きるのが遅くて時間がなかった」ことが主な要因。

	小学校2年生		小学校4年生		小学校6年生		中学校2年生		高校2年生	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
起きるのが遅くて食べる時間がなかった	47,4	31,3	17,4	30,0	26,7	35,4	39,6	31,6	54,9	40,3
食べたくなかった	31,6	46,9	47,8	40,0	60,0	50,8	32,1	39,2	23,2	34,9
他の家族もあまり食べないので	0,0	0,0	0,0	6,7	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	1,6
太りたくない	0,0	0,0	4,3	0,0	0,0	0,0	5,7	1,3	0,0	0,0
食事が用意されていなかった	21,1	15,6	17,4	6,7	6,7	7,7	7,5	12,7	8,5	8,5
その他	0,0	6,3	13,0	16,7	6,7	6,2	15,1	15,2	13,4	14,7
有効回答数	19,0	32,0	23,0	30,0	45,0	65,0	53,0	79,0	82,0	129,0

# 「朝食欠食」と「体のだるさ」の関係

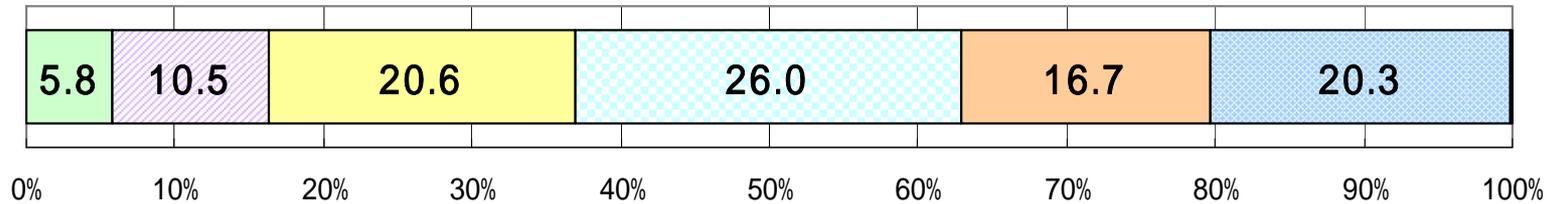
朝食を欠食する日の多い小中学生ほど、体のだるさを感じている。



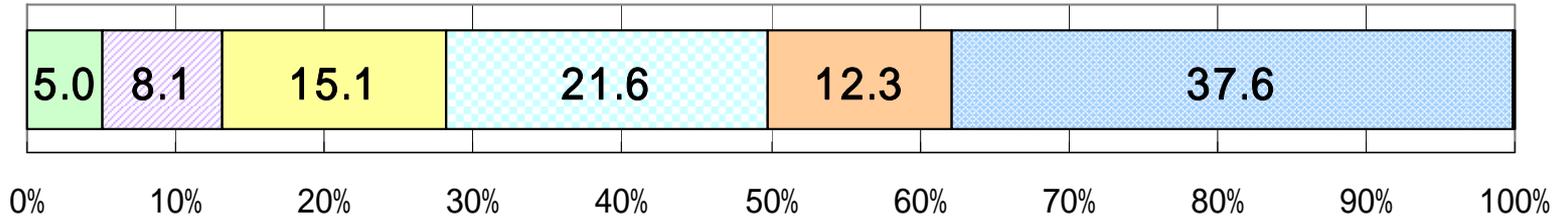
## 5-3 平日の学校外における読書時間の状況(小・中学生)

中学生の読書時間は、小学生と比べて短い傾向がある。

< 小学6年 >



< 中学3年 >

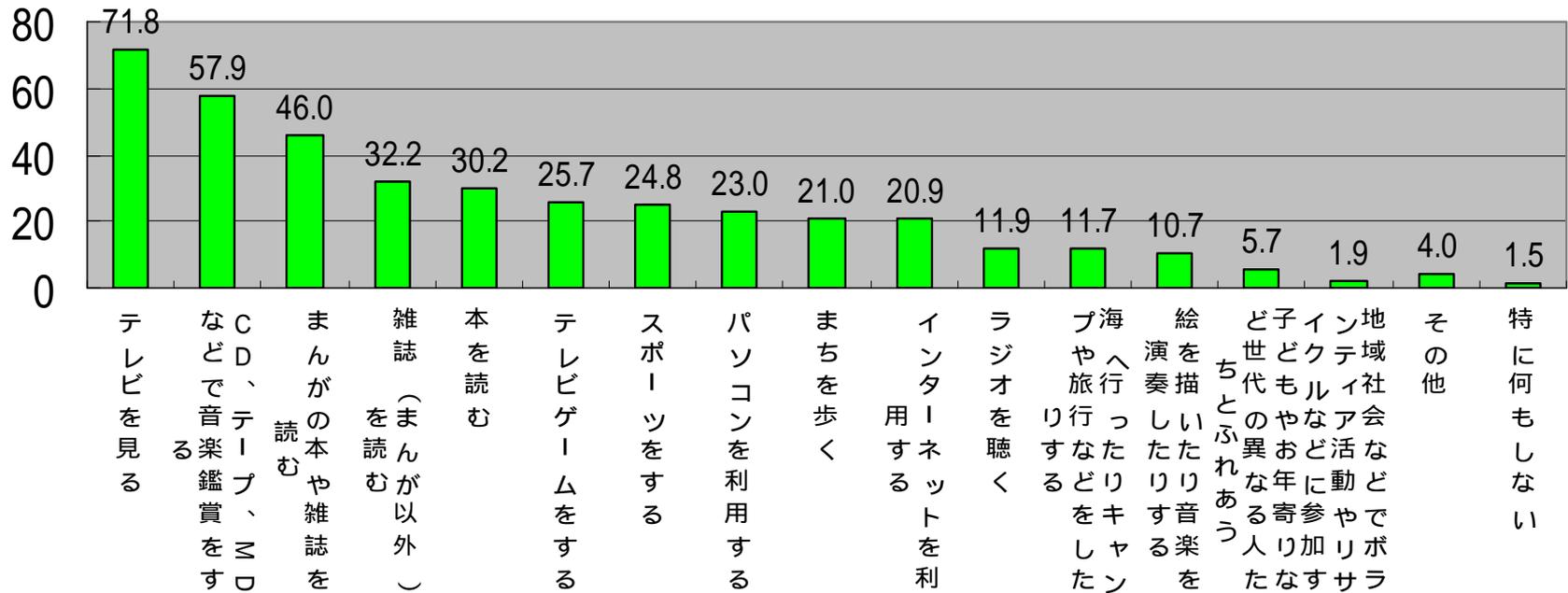


- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ■ 2時間以上          | ■ 1時間以上、2時間より少ない |
| ■ 30分以上、1時間より少ない | ■ 10分以上、30分より少ない |
| ■ 10分より少ない       | ■ 全くしない          |
| ■ その他            | ■ 無回答            |

# 自由時間の過ごし方

青少年の自由時間の過ごし方は一人遊びが多い。

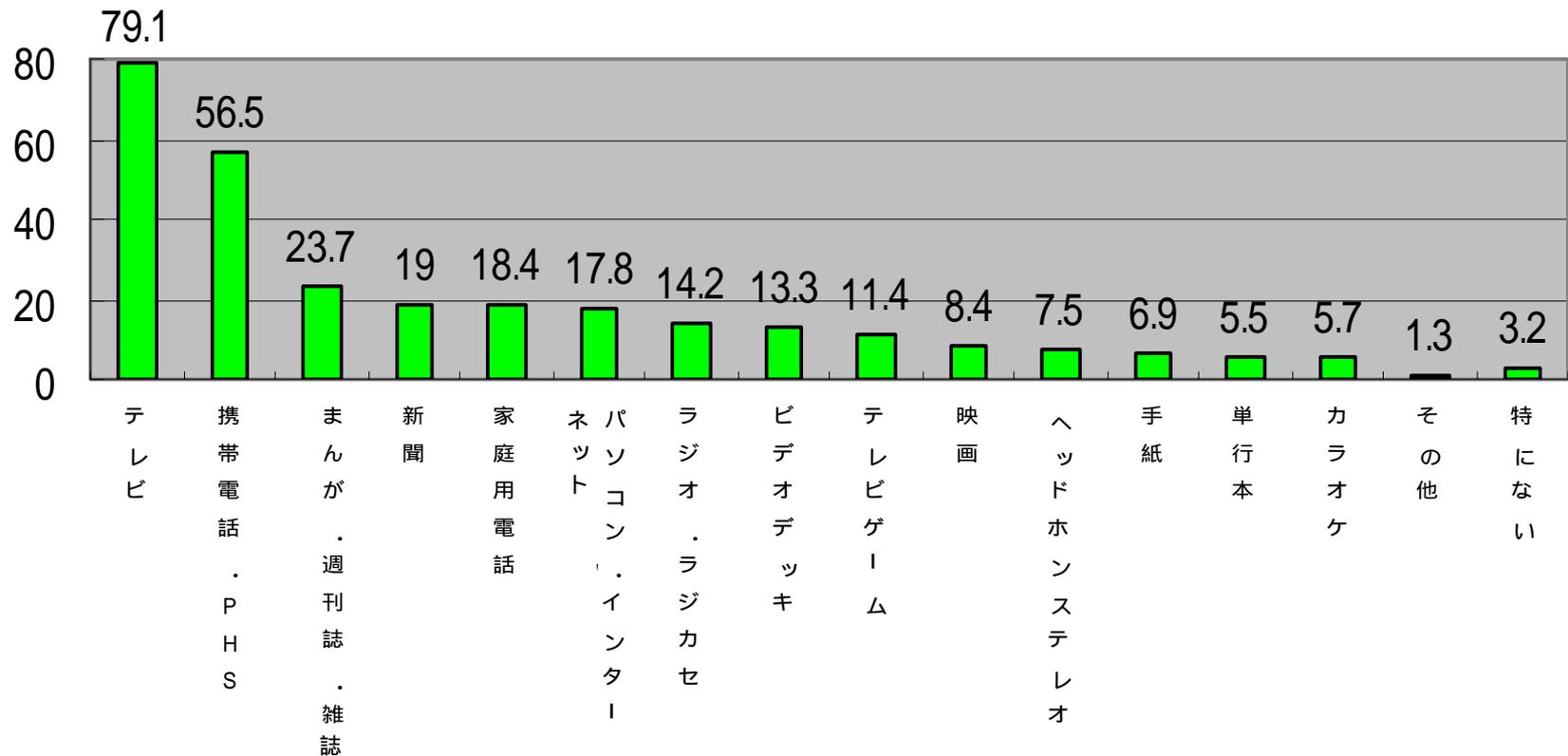
自由時間の過ごし方(12~30歳)



## なくてはならないもの

5割を超える青少年が「なくてはならないもの」としているものは、「テレビ」と「携帯電話・PHS」のみである。

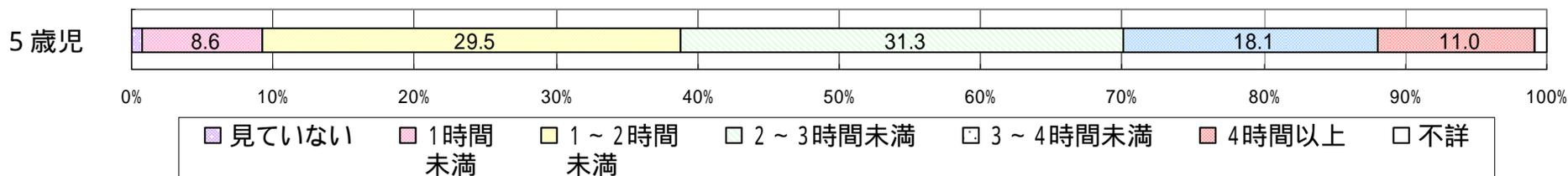
なくてはならないもの(12～30歳)



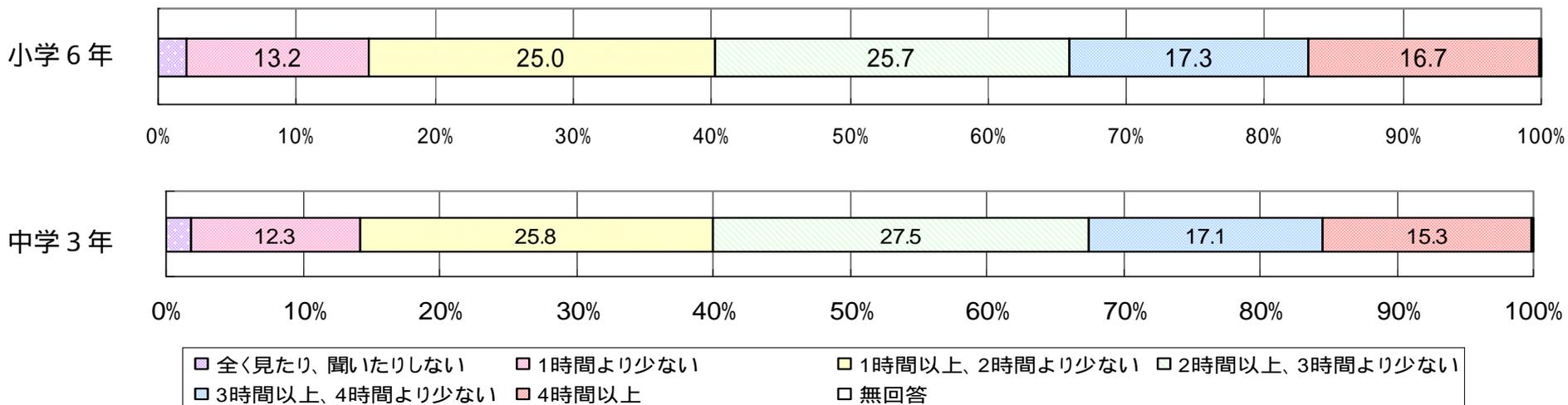
# 5-5 平日にテレビ、ビデオ、DVDを視聴する時間 (未就学児、小・中学生)

5歳児、小学6年、中学3年のいずれにおいても、約6割の子どもが1日2時間以上テレビ等を見ている。

## ふだんの日にテレビを見る時間



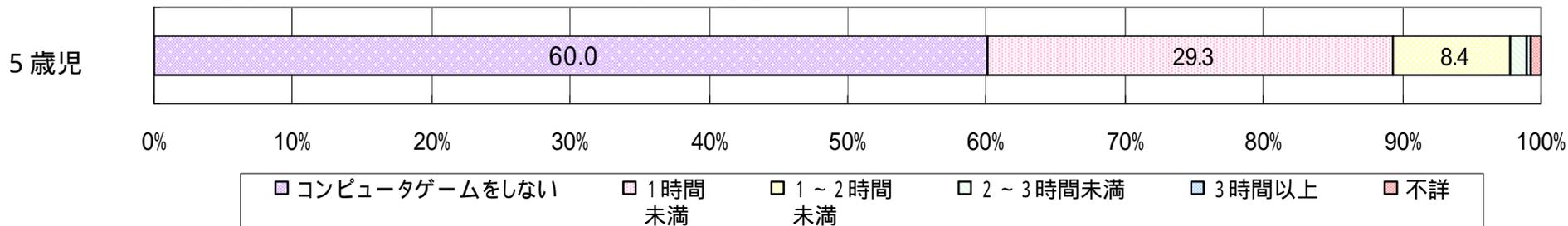
## 平日(月～金曜日)に1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりするか



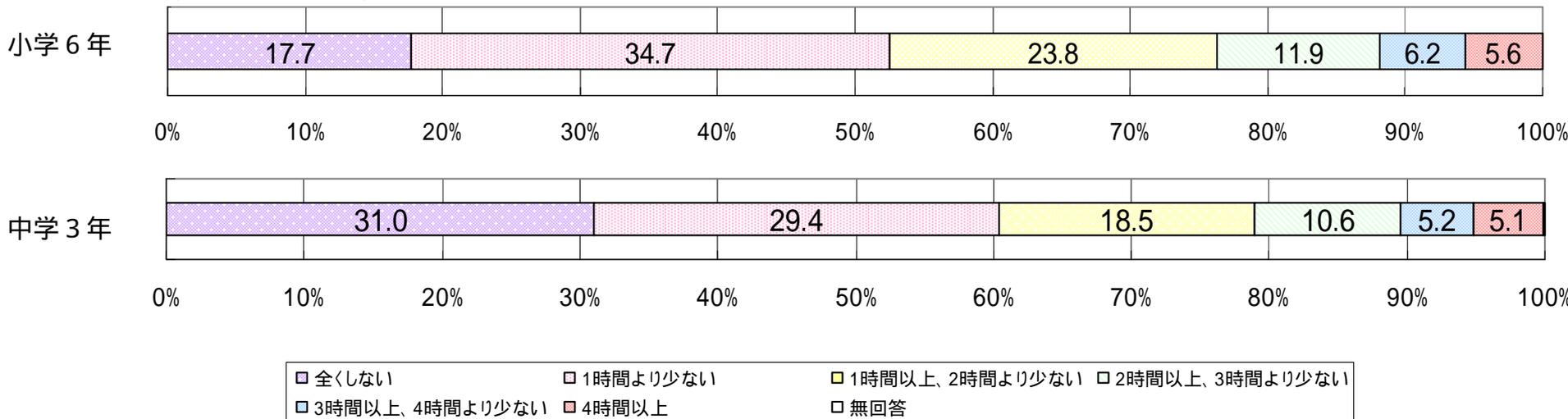
# 平日にテレビゲームをする時間（未就学児、小・中学生）

5歳児の約1割が1日当たり1時間以上コンピューターゲームを、  
小6の約5割弱・中3の約4割が、1日当たり1時間以上テレビゲームやインターネットをしている。

ふだんの日、コンピューターゲームをする時間

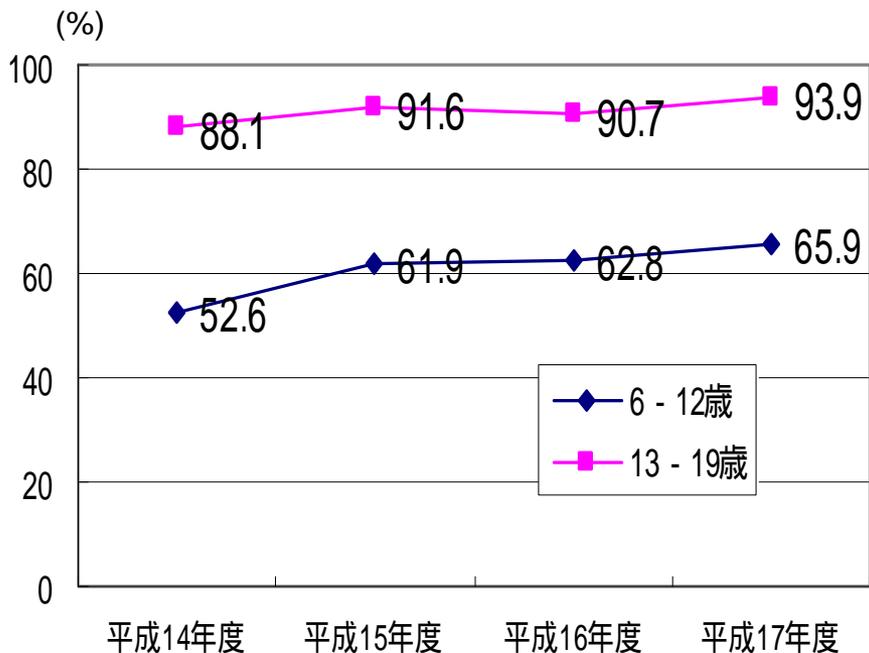


平日（月～金曜日）に1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームやインターネットをするか

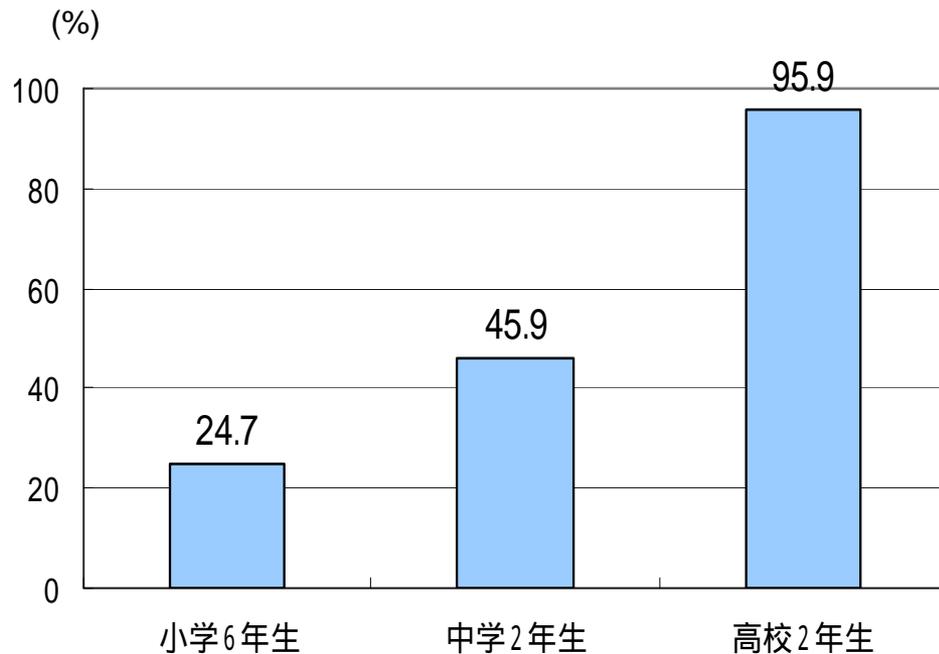


## インターネット利用率・ 携帯電話の所有状況

インターネット利用率



携帯電話の所有状況



# 【5-6 ゲーム、インターネット、携帯電話】

## 携帯電話の利用状況 (少年一般・非行少年)

### 1日にメールをする回数(平均)

中学男子		中学女子		高校男子		高校女子	
一般	非行	一般	非行	一般	非行	一般	非行
34.23回	41.34回	36.79回	49.64回	25.86回	40.09回	30.32回	43.52回

一般； 全国6府県から中学・高校各3校の各3クラスを選定し、当該クラスの生徒全員を対象に調査

非行； 全国の警察が検挙した犯罪少年のうち、中2又は高3の者を対象に調査

### 携帯電話への依存

		携帯電話がないと落ち着かない				携帯電話を持っていないと仲間とのつき合いがうまくいかない				メールのやりとりを終わらせることができず、延々と続いてしまうことがある				人と顔を合わせてコミュニケーションをとるのが面倒なことがある			
		中学		高校		中学		高校		中学		高校		中学		高校	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
割合	一般	31.6	54.0	45.2	63.0	17.5	19.7	26.9	36.3	51.9 (17.3)	64.8 (31.2)	57.8 (17.0)	72.4 (23.2)	16.6 (5.7)	12.7 (2.7)	20.2 (4.7)	20.0 (2.6)
	非行	57.7	84.7	67.3	80.6	41.8	48.3	50.2	58.1	58.8 (22.7)	72.9 (33.9)	64.0 (21.7)	69.1 (30.9)	30.4 (6.7)	37.9 (11.8)	26.2 (6.0)	27.6 (8.1)

割合は「よくある」及び「ときどきある」を合計した割合。  
( )は「よくある」のみの割合で内数。

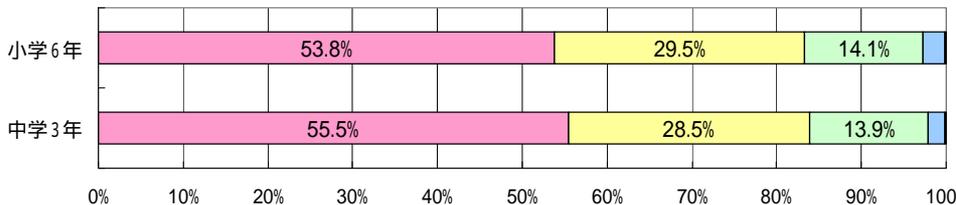
### 携帯電話の悪用

		出会い系サイトを利用したこと				アダルトサイトに接続したこと				授業中にメールを利用したこと			
		中学		高校		中学		高校		中学		高校	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
割合	一般	5.7 (3.1)	15.6 (1.9)	21.2 (3.1)	21.2 (1.4)	8.4	4.8	31.4	5.6	13.9	16.3	72.2	71.6
	非行	15.4 (1.5)	43.7 (6.7)	34.6 (5.2)	33.8 (5.6)	15.0	11.0	23.5	7.3	47.4	58.0	82.8	78.0

# 5-7 自然体験・奉仕体験、生活体験の有無 (小・中学生)

体の不自由なお年寄りや困っている人の手助けをした体験が「何度もある」又は「時々ある」子どもの割合は、約4割にとどまっている。

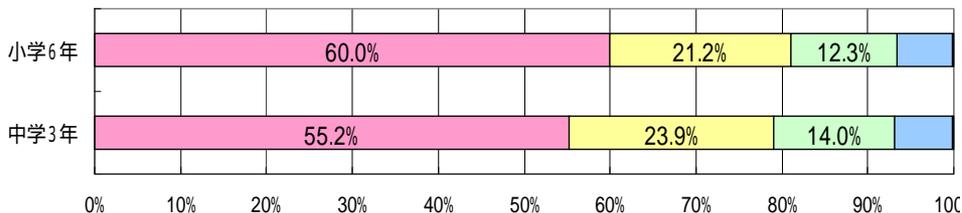
海、山、湖などで遊んだことがありますか



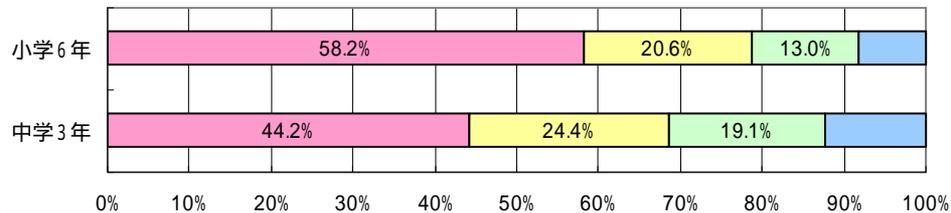
花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか



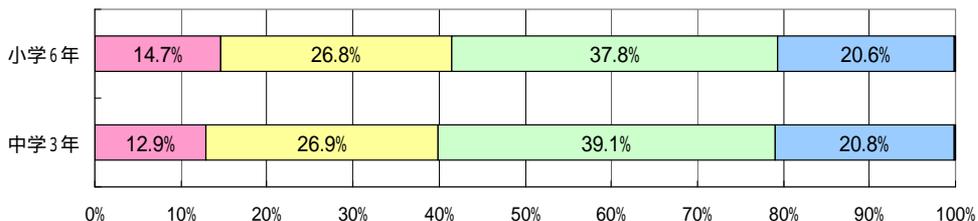
生き物を飼育したことがありますか



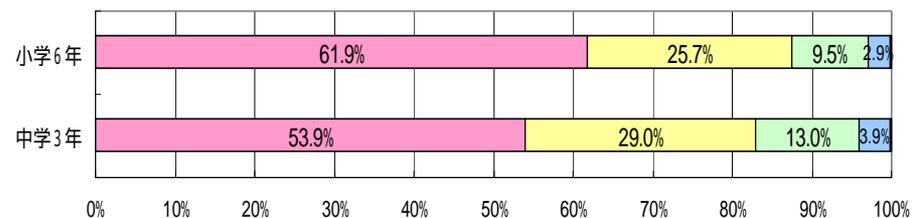
小さい子どもをおんぶやだっこしたり、遊んであげたりしたことがありますか



体の不自由なお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか



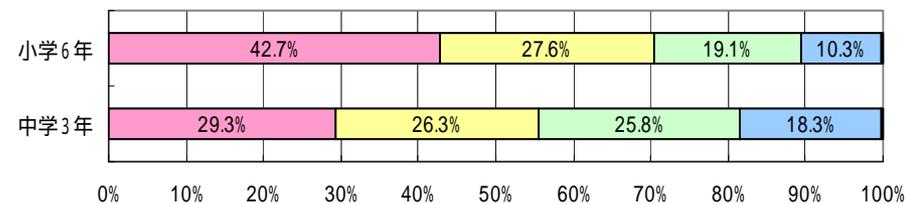
包丁やナイフを使って調理したことがありますか



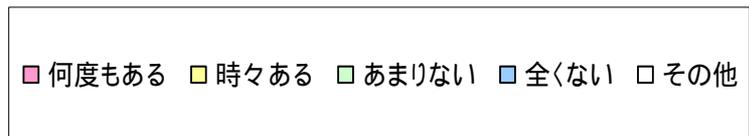
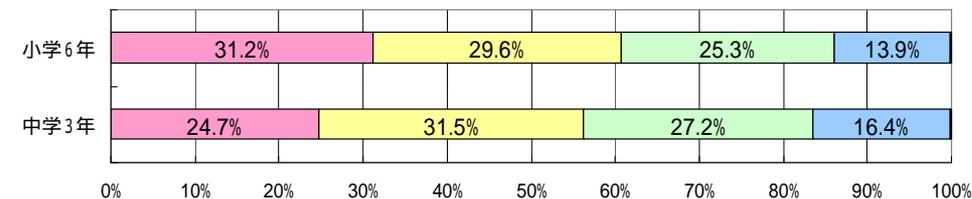
清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか



編み物や裁縫をしたことがありますか



木材を使ったものづくりをしたことがありますか

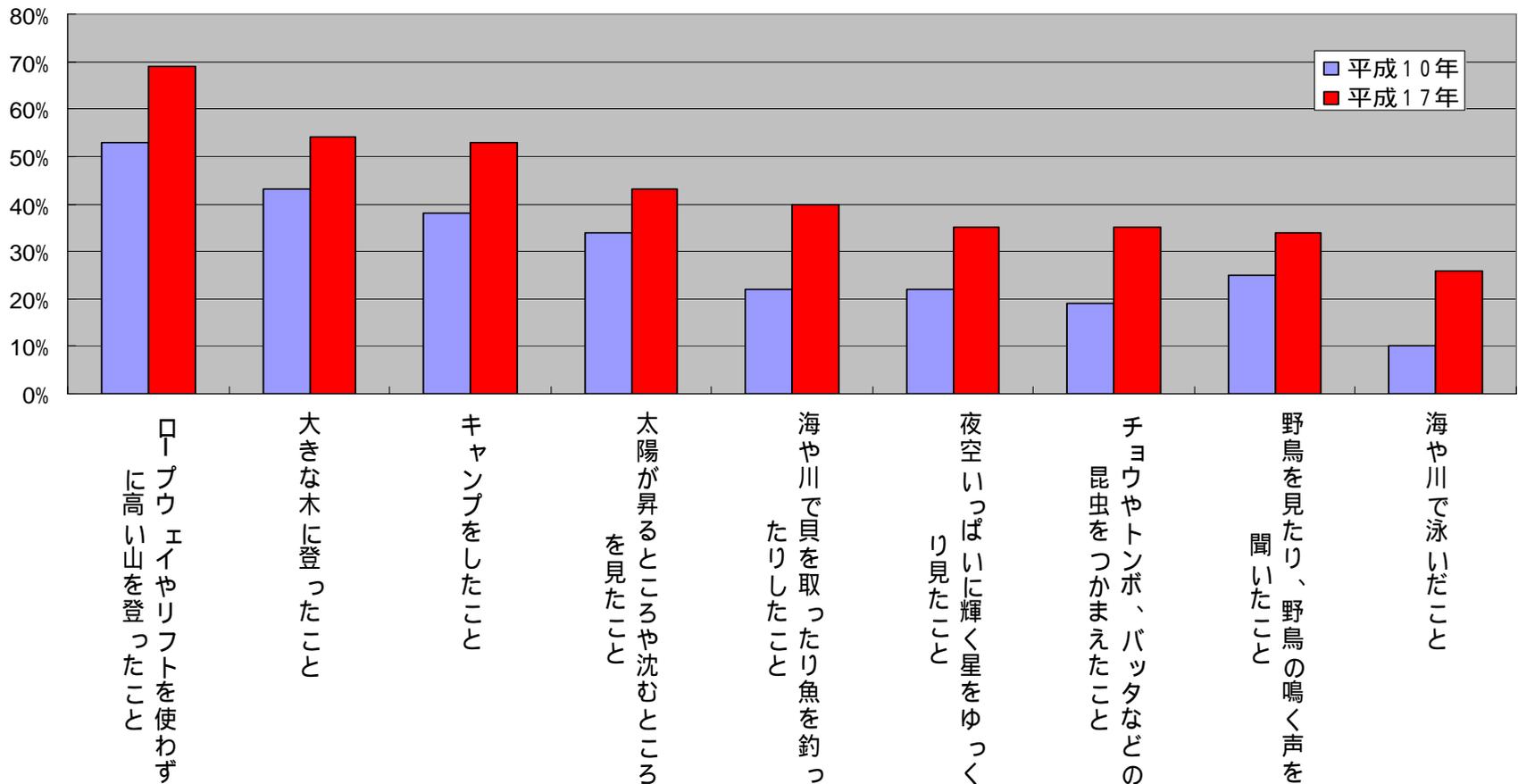


# 自然体験について「ほとんどしたことがない」割合

身近な自然体験を含め、自然の中で活動する体験の機会が減少している。

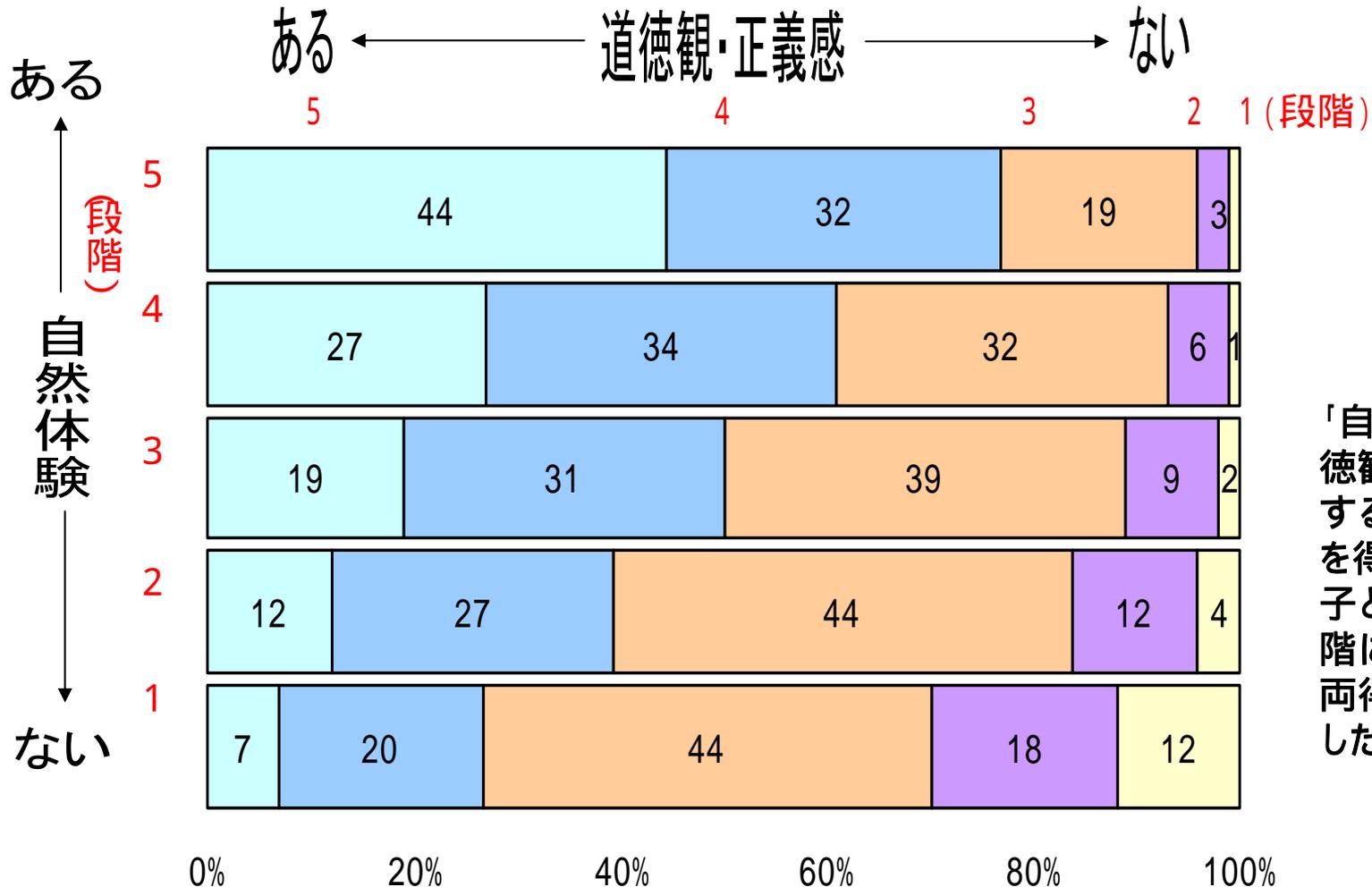
次の自然体験について「ほとんどしたことがない」割合

(平成10年と17年の比較)



# 自然体験と道徳観・正義感の関係

自然体験の多い小中学生には道徳感、正義感の身に付いている者が多い。

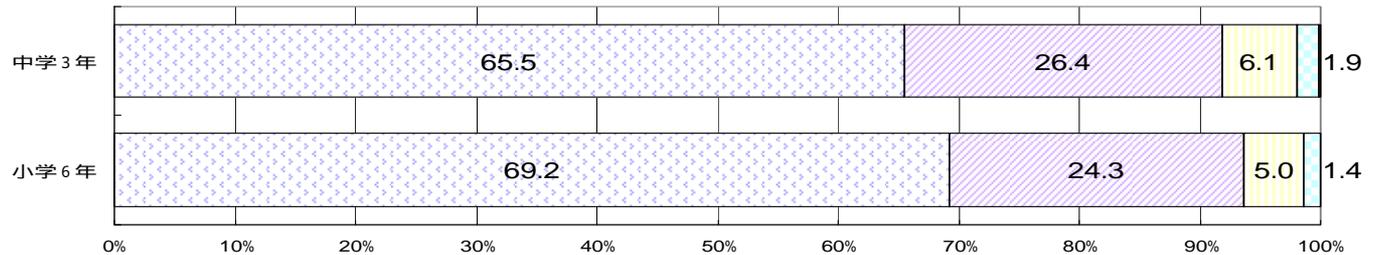


「自然体験」と「道徳観・正義感」に関する質問への回答を得点化し、各々の子どもの得点を5段階に区分した上で、両得点をクロス集計した。

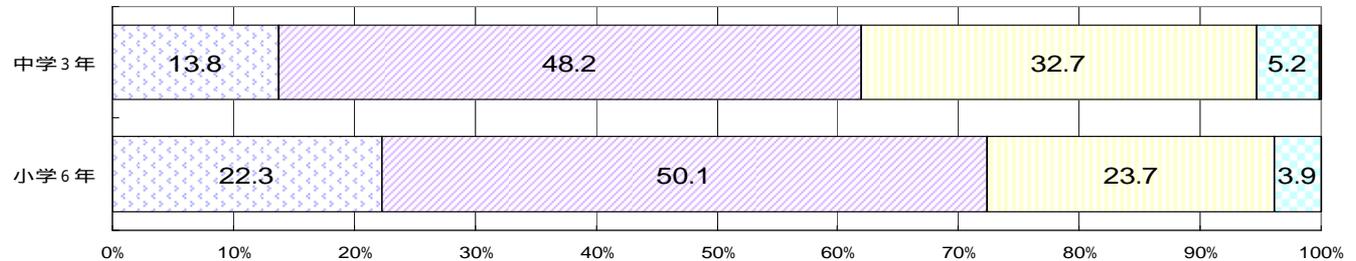
# 5-9 自己肯定感につながる経験・意識の状況（小・中学生）

「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」、「自分にはよいところがある」とする子どもの割合は、小学生より中学生で少なくなっている。

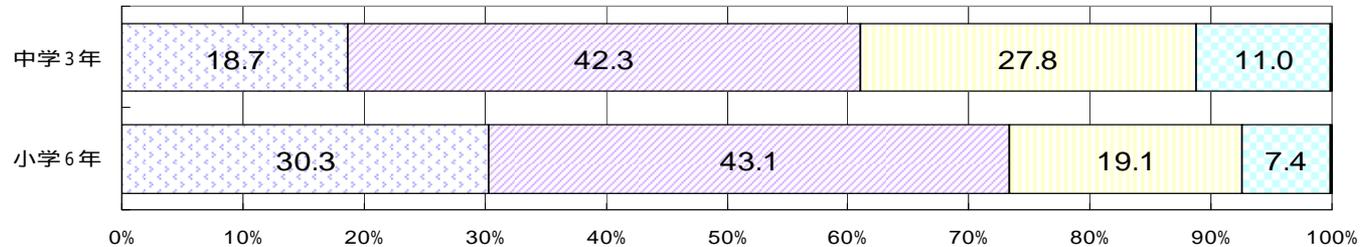
ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか



自分には、よいところがあると思いますか

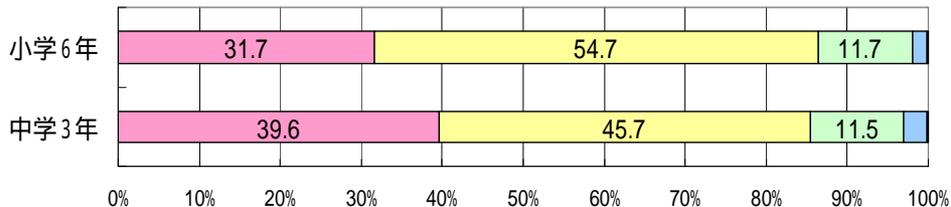


- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- その他
- 無回答

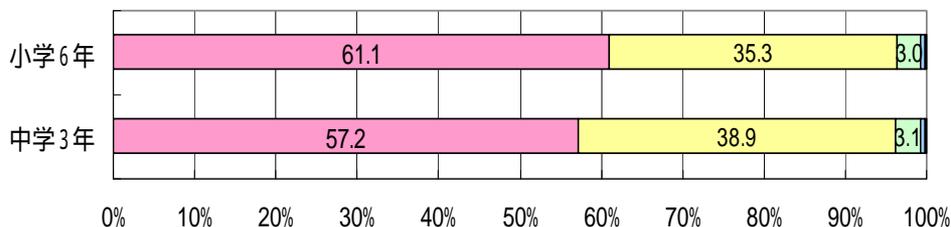
# 5-10 規範意識にかかわる意識・行動の状況(小・中学生)

「友達との約束を守っている」に当てはまるとする児童生徒が約6割であるのに対し、「学校のきまりを守っている」では3～4割、「人が困っているときに進んで助けている」は2割前後であった。

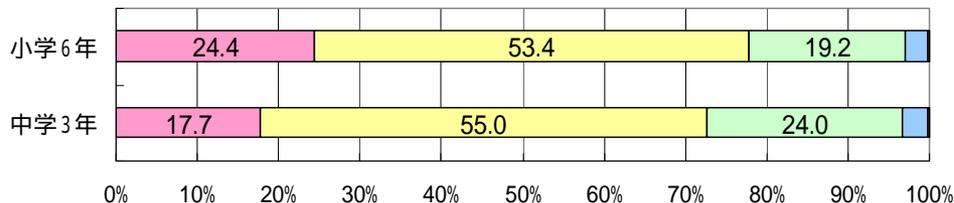
学校のきまりを守っていますか



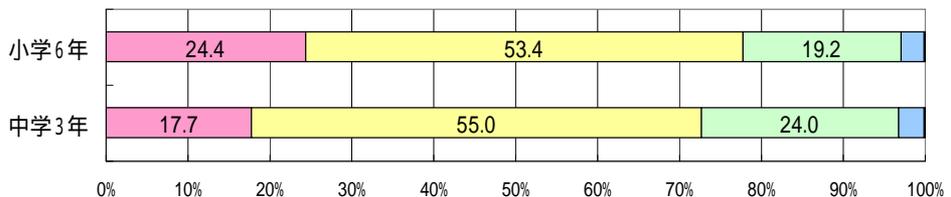
友達との約束を守っていますか



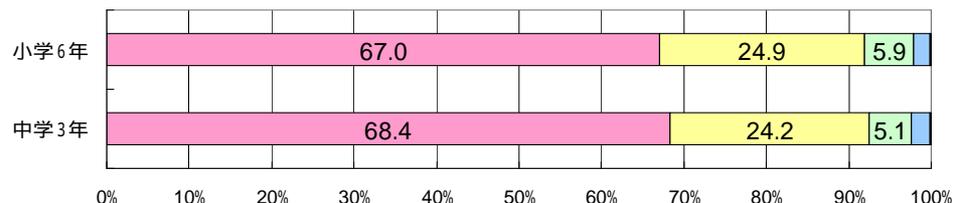
人が困っているときは、進んで助けていますか



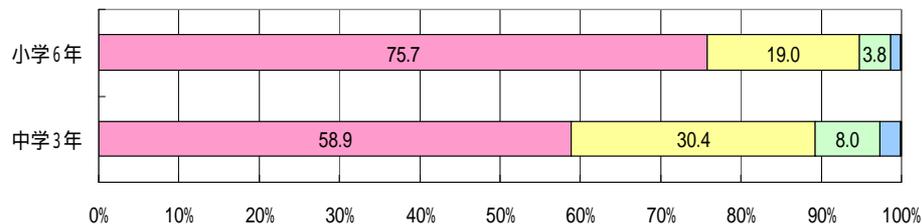
近所の人に出会ったときは、あいさつしていますか



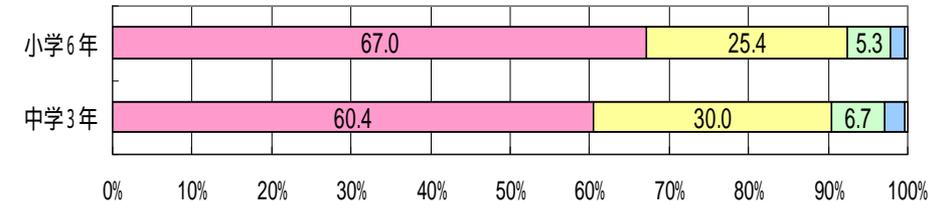
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



人の役に立つ人間になりたいと思いますか

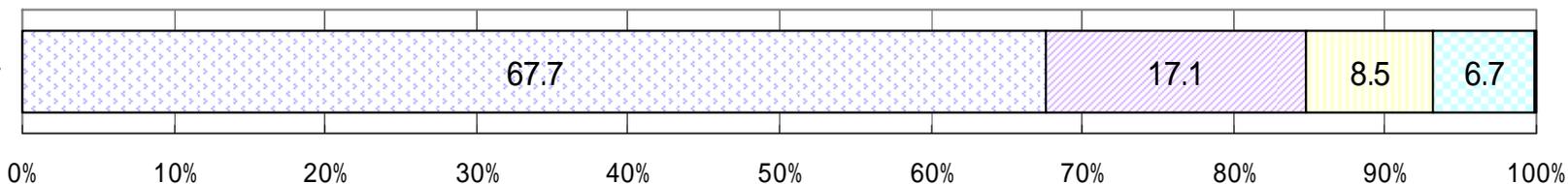


- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- 無回答

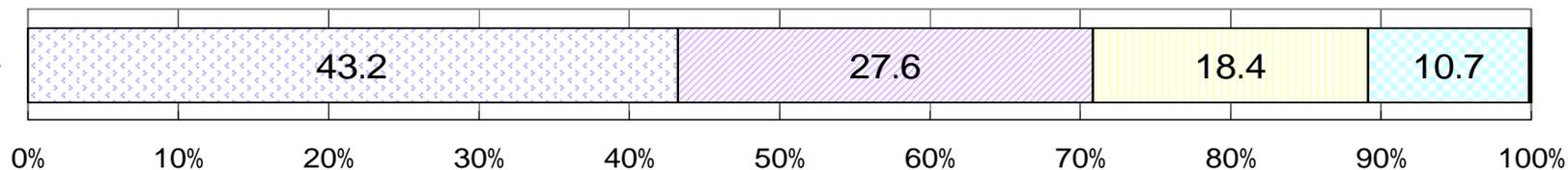
## 5-11 将来の夢や目標を持っているか（小・中学生）

中学生より小学生の方が、将来の夢や目標をもっている子どもの割合が多い。

< 小学6年 >



< 中学3年 >



□ 当てはまる  
□ 当てはまらない

▨ どちらかといえば、当てはまる  
■ その他

□ どちらかといえば、当てはまらない  
■ 無回答

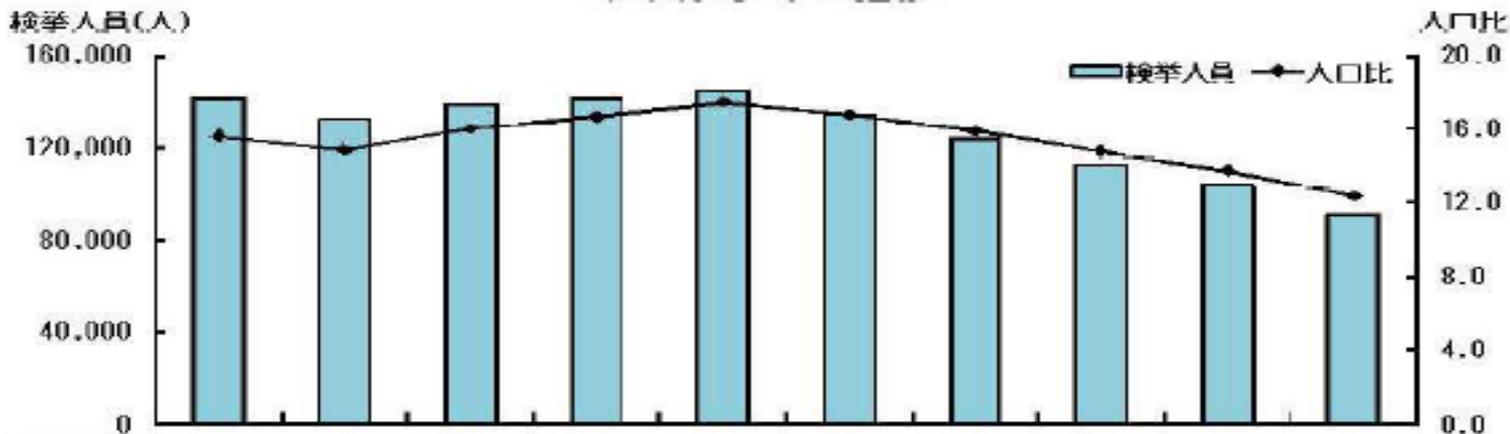
資料: 文部科学省 平成20年度全国学力・学習状況調査

## 6 その他

# 6-1 刑法犯少年・触法少年の推移

刑法犯罪少年の検挙人員の数は平成16年以降5年連続で減少。  
(この10年では約1/3の減)

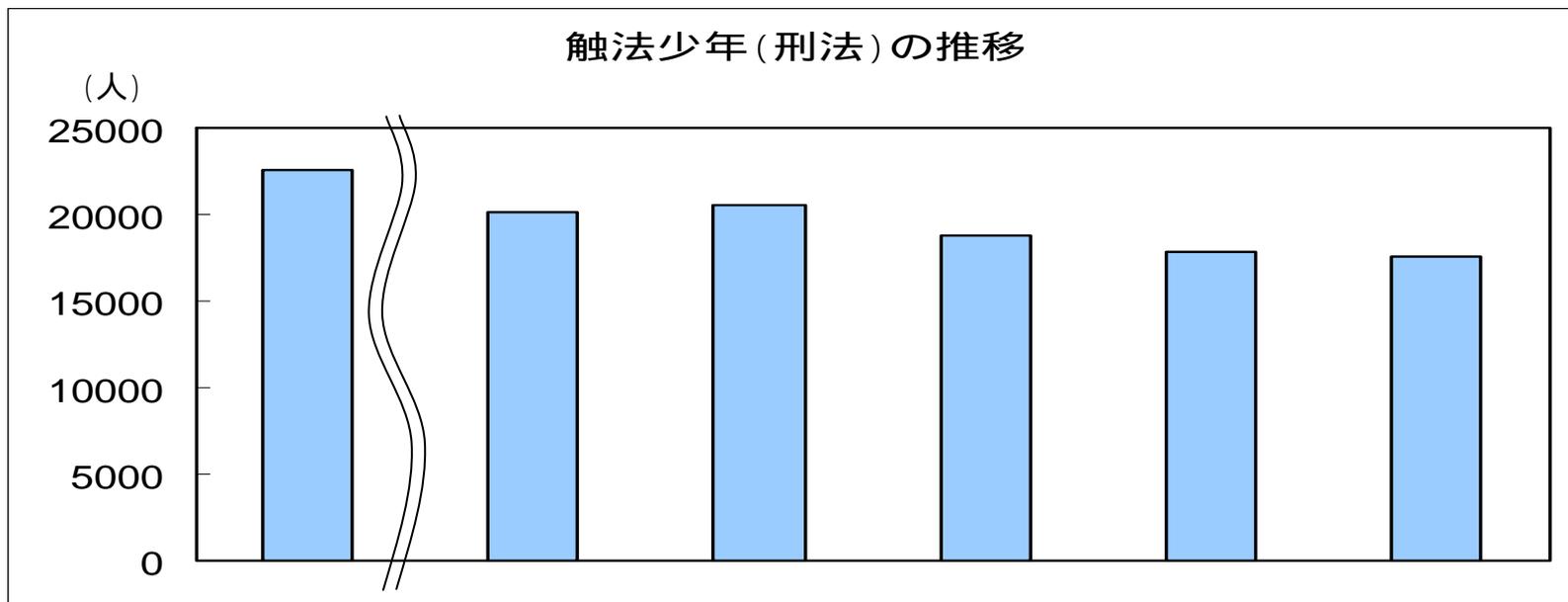
刑法犯少年の推移



年次	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
検挙人員(人)	141,721	132,336	138,654	141,775	144,404	134,847	123,715	112,817	103,224	90,966
(人口比)	15.6	14.9	16.0	16.7	17.5	16.8	15.9	14.8	13.8	12.4
凶悪犯	2,237	2,120	2,127	1,986	2,212	1,584	1,441	1,170	1,042	956
粗暴犯	15,930	19,691	18,416	15,954	14,356	11,439	10,458	9,817	9,248	8,645
窃盗犯	86,561	77,903	81,260	83,300	81,512	76,637	71,147	62,637	58,150	52,557
知能犯	561	584	526	632	784	1,240	1,160	1,294	1,142	1,135
風俗犯	409	429	410	347	425	344	383	346	341	389
その他の刑法犯	36,023	31,609	35,915	39,556	45,115	43,603	39,126	37,553	33,301	27,284
刑法犯総検挙人員に占める少年の割合(%)	44.9	42.7	42.6	40.8	38	34.7	32	29.4	28.2	26.8
成人刑法犯の人口比	1.7	1.8	1.8	2	2.3	2.5	2.5	2.6	2.5	2.4

注) 「刑法犯罪少年」；刑法等に規定する罪を犯した14歳以上20歳未満の者

触法少年の補導人員の数は平成18年以降3年連続の減少。



年次	11年	16年	17年	18年	19年	20年
総数(人)	22,503	20,191	20,519	18,787	17,904	17,568
凶悪犯	173	219	202	225	171	110
粗暴犯	1,507	1,301	1,624	1,467	1,425	1,347
窃盗犯	16,968	13,710	13,336	11,945	11,193	11,356
知能犯	21	46	57	63	55	65

注) 「触法少年」; 刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の者